2023 年度 保健衛生学部 IR 報告書

― 2022 年度 卒業生を対象とした

ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）―

藤田医科大学ＩＲ推進センター
保健衛生学部ＩＲ分室

2023 年 6月７日

藤田医科大学ＩＲ推進センター
保健衛生学部 IR 分室

2023 年度 保健衛生学部 ＩＲ報告書

2022 年度 卒業生を対象とした

ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）

2023 年度 保健衛生学部 IR 報告書

「2022 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）」について

本学の教育目標を達成するため、教育および学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学ＩＲ（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の保健衛生学部ＩＲ分室では、2022 年度の保健衛生学部の卒業生を対象とした保健衛生学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度に関する自己評価アンケートを行いましたので、その集計・分析結果について報告いたします。

2023 年 6 月 7 日

2023 年度 藤田医科大学ＩＲ推進センター 保健衛生学部ＩＲ分室
藤原　郁、世古留美、加藤睦美、岡島規子、小山総市朗、藤村健太、武田和也

目 次

１．分析結果の概要　1

２．ディプロマ・ポリシーについて　2
２－１）学部ディプロマ・ポリシー　2
２－２）学科ディプロマ・ポリシー　3

３．学部ディプロマ・ポリシーの到達度　5
３－１）アンケート調査方法　5
３－２）調査概要、調査結果および到達度の分析　7
３－２－１）学部全体としての分析　10
３－３）各学科の調査結果および到達度の分析　14
３－３－１）看護学科　14
３－３－２）リハビリテーション学科・理学療法専攻　16
３－３－３）リハビリテーション学科・作業療法専攻　18
３－４）経年的分析　19

４．学科ディプロマ・ポリシーの到達度　22
４－１）アンケート調査方法　22
４－２）各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析　22
４－２－１）看護学科　22
４－２－２）リハビリテーション学科・理学療法専攻　25
４－２－３）リハビリテーション学科・作業療法専攻　29

４－３）経時的分析　32

４－３－１）看護学科　32

４－３－２）リハビリテーション学科理学療法専攻　35

４－３－３）リハビリテーション学科作業療法専攻　38

１．分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上をめざし、学生が実感している学修の到達度を明らかにすることを目的として、2022 年度卒業生を対象として保健衛生学部および所属する各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度について、自己評価アンケート調査を行い、集計・分析を行った。

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、学部全体の集計結果では、全て中央値が「５：概ね修得できた」であった。DP4（解決力）の自己評価が若干他の項目よりも低い評価となる傾向は昨年度調査と同様であった。

学科間で比較すると、自己評価の中央値はDP3（科学行動）、DP4（解決力）、DP5（生涯学習）DP7（専門技能）において、看護学科は「５：概ね修得できた」であったが、リハビリテーション学科・理学療法専攻では、DP4（解決力）、DP5（生涯学習）が「４：最低水準は修得できた」であり、作業療法専攻では、DP3（科学行動）、DP4（解決力）、DP5（生涯学習）DP7（専門技能）の 4 項目において、「４：最低水準は修得できた」であった。平均値は看護学科の方が高い値を示していた。また、過去５年間の経年的な傾向は、自己評価の平均値については全ての DP 項目で変化は小さく安定していた。評価の割合については、多くの DP 項目で「６：完全に修得できた」との評価は減少傾向、「４：最低水準は修得できた」の評価は増加傾向が認められた。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、看護学科では、DP1～DP8 のいずれも評定値の平均値は「４：最低水準は修得できた」以上の回答が得られ、中央値は「５：概ね修得できた」を示していた。「３：ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下と評価した割合は、全ての項目で 10％未満であった。リハビリテーション学科・理学療法専攻では、DP1～DP7 のいずれも評定値の平均値は「４：最低水準は修得できた」以上の回答が得られ、中央値も DP4 の「４：最低水準は修得できた」を除き、「５：概ね修得できた」を示していた。作業療法専攻では、DP1～DP7 のいずれも評定値の平均値は「４：最低水準は修得できた」の回答が得られ、中央値も「４：最低水準は修得できた」～「５：概ね修得できた」を示していた。「３：ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下と評価した割合は、両専攻ともに DP4（解決力）、DP5（生涯学習）が 10％を超えたが、それ以外の DP 項目では 10％未満であった。

また、過去５年間の経年的な傾向は、看護学科、リハビリテーション学科ともに、各 DP 項目の各年における学生自己評価の平均値はほぼ等しく、何らかの傾向は認められなかった。経年的な割合の変化では、看護学科において、DP1（知能技能）、DP2（看護基礎）、DP3（自律責任）、DP5（コミュ力）の項目において 2021 年度「６：完全に修得できた」の割合が減少傾向、「５：概ね修得できた」増加を示した。リハビリテーション学科・理学療法専攻では、2022 年度、2023 年度は、DP2（倫理態度）、DP3（科学的行動）、DP5（地域貢献）、DP6（専門技能）、DP7（チーム医療）の 5 項目で「５：概ね修得できた」の割合が過去 3 年に比べて高い傾向であった。作業療法専攻においては各年の自己評価の割合はばらついており、何らかの経年的な変化の傾向は認められなかった。

２．ディプロマ・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシー（Diploma Policy）とは、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針である。

藤田医科大学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけているべき知識・理解・思考・判断・興味・関心・態度・技能・表現について具体的にまとめ、これをディプロマ・ポリシーとして設定し、公表している。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育に関する質保証に資するために策定される。

２－１）学部ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部では、学部レベルのディプロマ・ポリシーを策定している。2022 年度卒業生に対する学部ディプロマ・ポリシーについて表２－１に示す。

表２－１．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部は、看護学、理学療法学、作業療法学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

（知識・理解）

1） 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。

2） 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

（思考・判断）

3） 対人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行え、必要な行動を示すことができる。

4） 国際的視野に立ち、疑問を解決する行動をとることができる。

（興味・関心）

5） 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に適応し、生涯を通して自らを成長させることができる。

（態度）

6） 対人の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

（技能・表現）

7） 専門的な技能を、対人に適確かつ安全に提供することができる。

8） 患者や家族とコミュニケーションをとり、保健・医療・福祉チームのメンバーと良好な関係を築き、チームの一員として役割を果たすことができる。

２－２）学科ディプロマ・ポリシー

保健衛生学部の各学科においてもディプロマ・ポリシーを設定し、教育の質保証に努めている。保健衛生学部の看護学科のディプロマ・ポリシーを表２－２、リハビリテーション学科（理学療法専攻と作業療法専攻の共通）を表２－３に示す。

表２－２．看護学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学保健衛生学部のディプロマ・ポリシーに基づき、看護学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験に合格した学生に「学士（看護学）」の学位を授与します。
卒業試験は下記の能力が身についていることを総合的に判断するものです。よって、看護学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

1) 看護職の基盤となる知識と技能を有している。

2) 看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できる。

3) 人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができる。

4) 専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学習を生涯継続していく姿勢を身につけている。

5) 多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができる。

6) 保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮することができる。

7) 地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができる。

8) 国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができる。

表２－３．リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学保健衛生学部のディプロマ・ポリシーに基づき、リハビリテーション学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に理学療法専攻では『学士（理学療法学）』、作業療法専攻では『学士（作業療法学）』の学位を授与します。
卒業試験は下記の能力が身についていることを総合的に判断するものです。よって、リハビリテーション学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

1) 医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力を有している。

2) 患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度を身につけている。

3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を

示すことができる。

4) 最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができる。

5) 患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができる。

6) 専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができる。

7) 組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。

３．学部ディプロマ・ポリシーの到達度

３－１）アンケート調査方法

保健衛生学部の 2022 年度４年生を対象として、保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、学生自身に評価させるアンケート調査を実施した。アンケート調査は「医療科学部・保健衛生学部 Moodle」の「アンケート」機能により実施し、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目（計８項目）を設問として、それに対する自らの到達度を６段階で自己評価させた。

アンケート調査は、2022 年度４年生が卒業する前の 2023 年１～２月中に各学科の事情に合わせ、学生に対して Moodle での入力を促した。

アンケート調査項目である保健衛生学部ディプロマ・ポリシーを表３－１、達成度の６段階の評定尺度を表３－２に示す。

表３－１．アンケート調査の設問項目：保健衛生学部ディプロマ・ポリシー

DP1 （専門知識）	医療人としての専門分野の学修内容について知識が修得できましたか。
DP2 （倫理教養）	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身につきましたか。
DP3 （科学行動）	対人の身体的･心理的･社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行え、必要な行動を示すことができるようになりましたか。
DP4 （解決力）	国際的視野に立ち、疑問を解決する行動をとることができるようになりましたか。
DP5 （生涯学習）	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に適応し、生涯を通して自らを成長させることができるようになりましたか。
DP6 （責任感）	対人の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになりましたか。
DP7 （専門技能）	専門的な技能を、対人に適確かつ安全に提供することができるようになりましたか。
DP8 （コミュ力）	患者･家族や保健･医療･福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになりましたか。

表３－２．アンケート調査に用いた到達度の評定尺度（6 段階）

６：完全に修得できた
５：概ね修得できた
４：最低水準は修得できた
３：ある程度修得したが、最低水準には届かない
２：十分に修得できていない
１：全く修得できていない

３－２）調査概要、調査結果および到達度の分析

2022 年度保健衛生学部４年生を対象とした保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、アンケート調査（卒業生 246 名中 246 件：回収率 100.0%）の回答の度数分布を表３－３に示す。学部全体としての各設問に対する評定尺度毎の回答結果のヒストグラムを図３－１に示す。各設問に対する回答の割合を図３－２に示す。

表３－３．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価アンケート結果
度数分布

（専門知識）	学部	看護	リ理	リ作
6	21	17	3	1
5	161	92	43	26
4	58	16	24	18
3	4	1	3	0
2	2	2	0	0
1	0	0	0	0

（生涯学習）	学部	看護	リ理	リ作
6	32	25	7	0
5	127	86	28	13
4	70	15	30	25
3	11	0	7	4
2	6	2	1	3
1	0	0	0	0

DP2

（倫理教養）	学部	看護	リ理	リ作
6	39	30	9	0
5	162	88	43	31
4	36	6	16	14
3	8	3	5	0
2	1	1	0	0
1	0	0	0	0

DP6

（責任感）	学部	看護	リ理	リ作
6	48	39	8	1
5	146	81	35	30
4	46	5	28	13
3	4	2	1	1
2	2	1	1	0
1	0	0	0	0

DP3

（科学行動）	学部	看護	リ理	リ作
6	31	25	6	0
5	150	92	38	20
4	59	8	27	24
3	5	2	2	1
2	1	1	0	0
1	0	0	0	0

DP7

（専門技能）	学部	看護	リ理	リ作
6	32	25	6	1
5	135	81	33	21
4	68	17	30	21
3	10	4	4	2
2	1	1	0	0
1	0	0	0	0

DP4

（解決力）	学部	看護	リ理	リ作
6	19	14	5	0
5	108	73	23	12
4	82	34	29	19
3	26	4	11	11
2	11	3	5	3
1	0	0	0	0

DP8

（コミュ力）	学部	看護	リ理	リ作
6	54	45	7	2
5	142	73	42	27
4	44	8	21	15
3	4	1	2	1
2	2	1	1	0
1	0	0	0	0

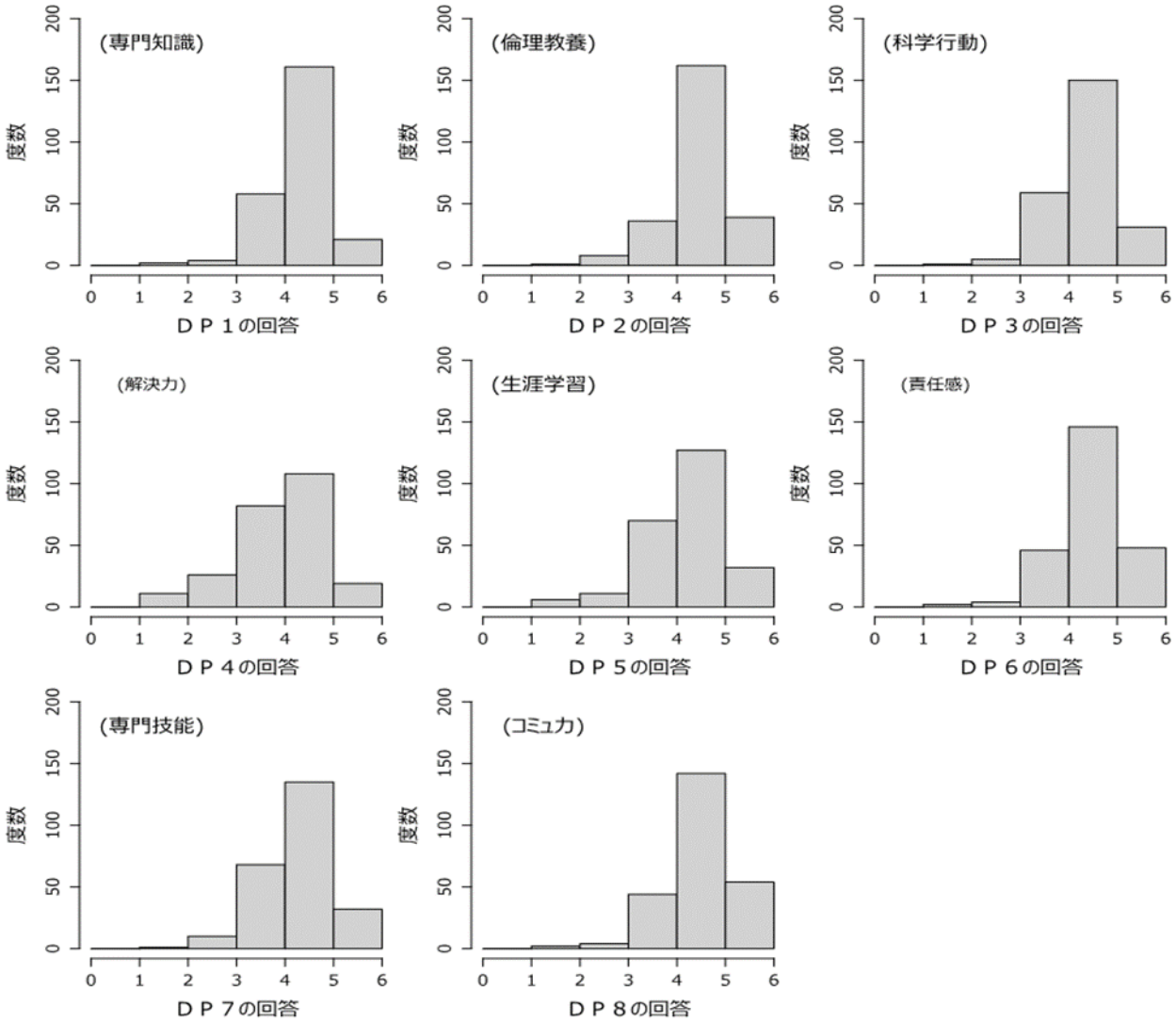

図３－１．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果　学部全体の回答分布

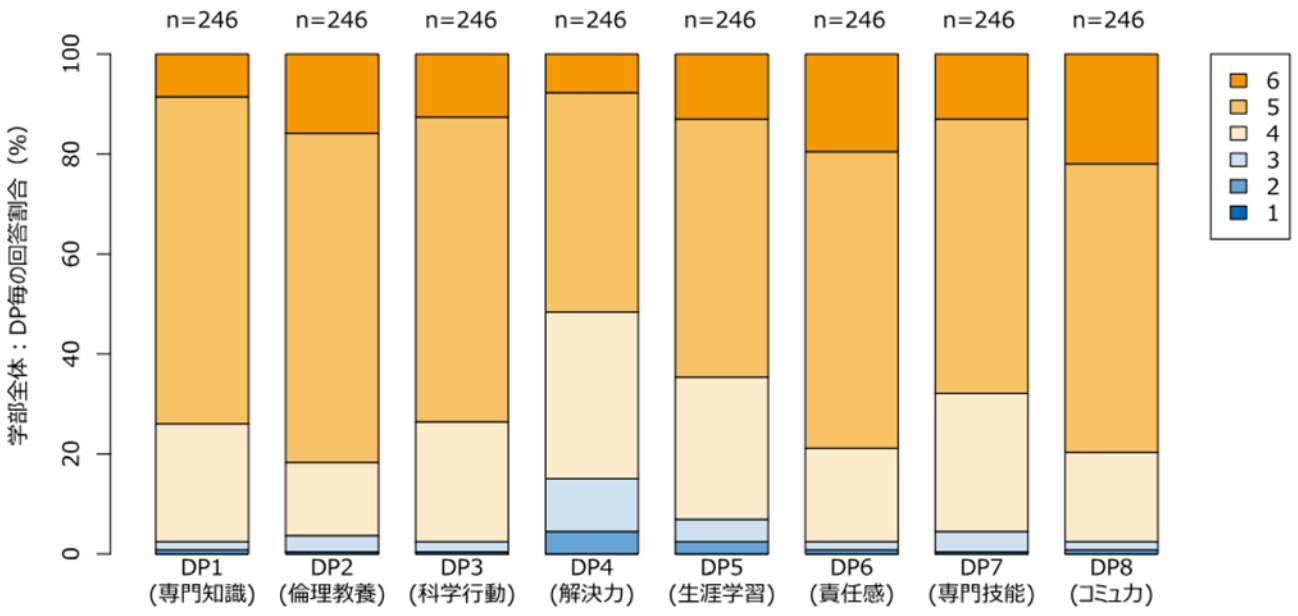

図３－２．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果　設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に６段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行う。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表３－４に示す。各ディプロマ・ポリシー項目（以下、DP1～DP8）について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図３－３に示す。

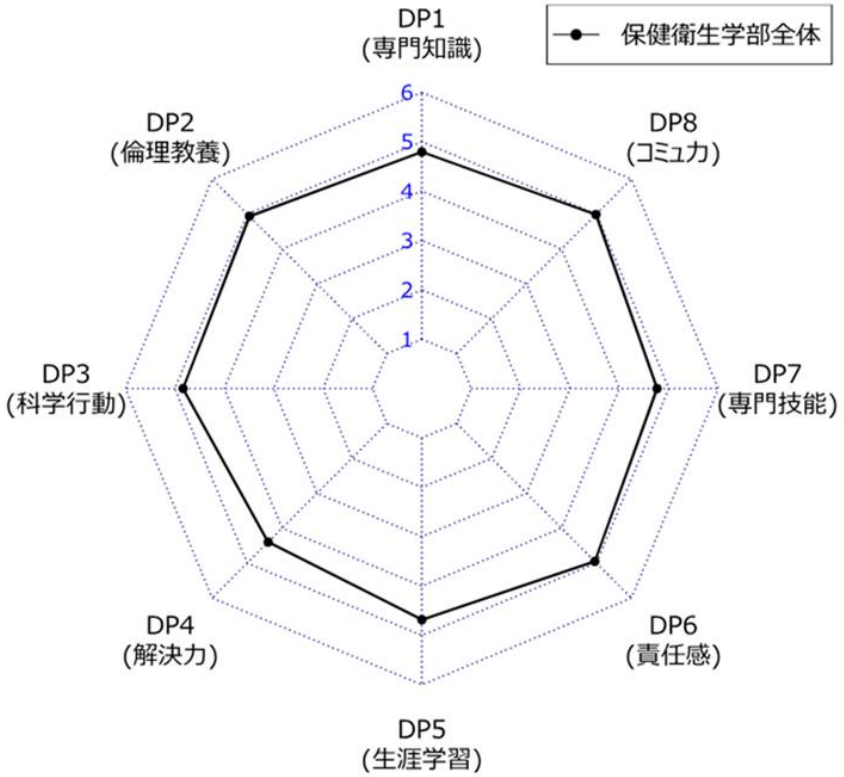

表３－３．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果　評定値の平均値

表３－４．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果　基本統計量

（専門知識）	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.79	4.95	4.63	4.62
標本SD	0.65	0.65	0.63	0.53
中央値	5	5	5	5
最大値	6	5	5	5
最小値	2	5	5	5
n	246	128	73	45

（生涯学習）	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.68	5.03	4.45	4.07
標本SD	0.84	0.67	0.84	0.80
中央値	5	5	4	4
最大値	6	6	6	5
最小値	2	2	2	2
n	246	128	73	45

DP2

（倫理教養）	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.93	5.12	4.77	4.69
標本SD	0.68	0.66	0.75	0.46
中央値	5	5	5	5
最大値	6	6	6	5
最小値	2	2	3	4
n	246	128	73	45

DP6

（責任感）	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.95	5.21	4.66	4.69
標本SD	0.72	0.66	0.74	0.55
中央値	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6
最小値	2	2	2	3
n	246	128	73	45

DP3

（科学行動）	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.83	5.08	4.66	4.42
標本SD	0.68	0.62	0.67	0.54
中央値	5	5	5	4
最大値	6	6	6	5
最小値	2	2	3	3
n	246	128	73	45

DP7

（専門技能）	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.76	4.98	4.56	4.47
標本SD	0.74	0.72	0.72	0.62
中央値	5	5	5	4
最大値	6	6	6	6
最小値	2	2	3	3
n	246	128	73	45

DP4

（解決力）	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.40	4.71	4.16	3.89
標本SD	0.93	0.79	0.99	0.87
中央値	5	5	4	4
最大値	6	6	6	5
最小値	2	2	2	2
n	246	128	73	45

DP8

（コミュ力）	学部	看護	リ理	リ作
平均値	4.98	5.25	4.71	4.67
標本SD	0.73	0.67	0.73	0.60
中央値	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6
最小値	2	2	2	3
n	246	128	73	45

図３－３．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果　評定値の平均値

３－２－１）学部全体としての分析

2022 年度４年生の保健衛生学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価の平均値は、DP4（解決力）の 4.40±0.93 から DP8（コミュ力）の 4.98±0.67 の範囲となった。中央値はすべての項目で「５：概ね修得できた」であった。到達度の自己評価が「２：十

分に修得できていない」以下の回答は全回答中の 1.32%（26／1,968 件）と少数であり、「４：最低水準は修得できた」以上の回答は全回答中の 95.0%（1,870／1,968 件）と、卒業時の到達点として定めたディプロマ・ポリシーについて「最低水準は修得できた」と自己評価する学生が大多数を占めた。

2022 年度の同調査においても、中央値は全ての項目で「５：概ね修得できた」であった。到達度の自己評価が「２：十分に修得できていない」以下の回答は全回答中の 1.87％（33/1,760 件）であり、「４：最低水準は修得できた」以上の解答は全回答中の 93.9％（1,654/1,760 件）であった。2022 年度 4 年生と 2021 年度 4 年生の調査を比較すると、「４．最低水準は習得できた」以上の回答の割合はほぼ等しかった。得点においては、2022 年度 4 年生の自己評価よりも 2023 年度４年生の自己評価のほうが若干低い値であり、すべての項目の中央値が「５．概ね習得できた」であった。しかし、絶対数は少なかったが「２：十分に修得できていない」以下と回答する学生数が若干増えていた。

３－２－２）学科間の比較

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの８項目について、項目ごとに回答された評定値の割合を学科間で比較したグラフを図３－４に示す。

DP1～DP8 における回答された評定値は、看護学科とリハビリテーション学科（理学療法専攻、作業療法専攻）でばらつきがあった。全体的には、看護学科はリハビリテーション学科に比べ「６．完全に修得できた」「５：概ね修得できた」以上と回答する率が高い傾向を示した。

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの DP1 項から DP8 項目について、学科間で回答された評定値の平均値を比較するグラフを図３－５に示す。看護学科は全ての DP 項目で、リハビリテーション学科と比べ高い値を示した。

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの各８項目について学科間で比較すると、学部平均に比べ若干ではあるが看護学科の自己評価が高く、理学療法専攻と作業療法専攻では、すべての項目において作業療法専攻の自己評価が低かった。

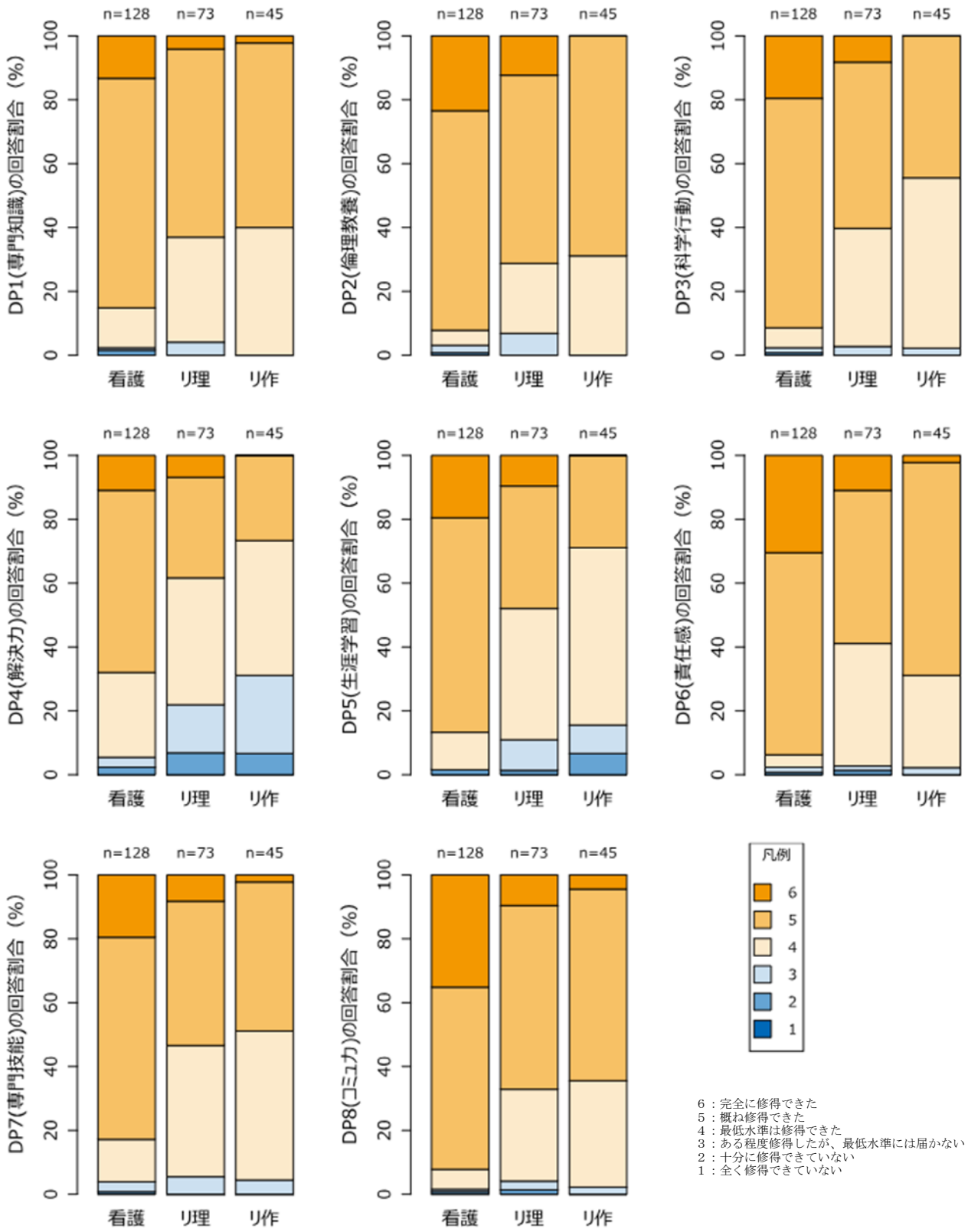

図３－４．保健衛生学部ディプロマ・ポリシー自己評価　回答割合の学科間比較（割合%）

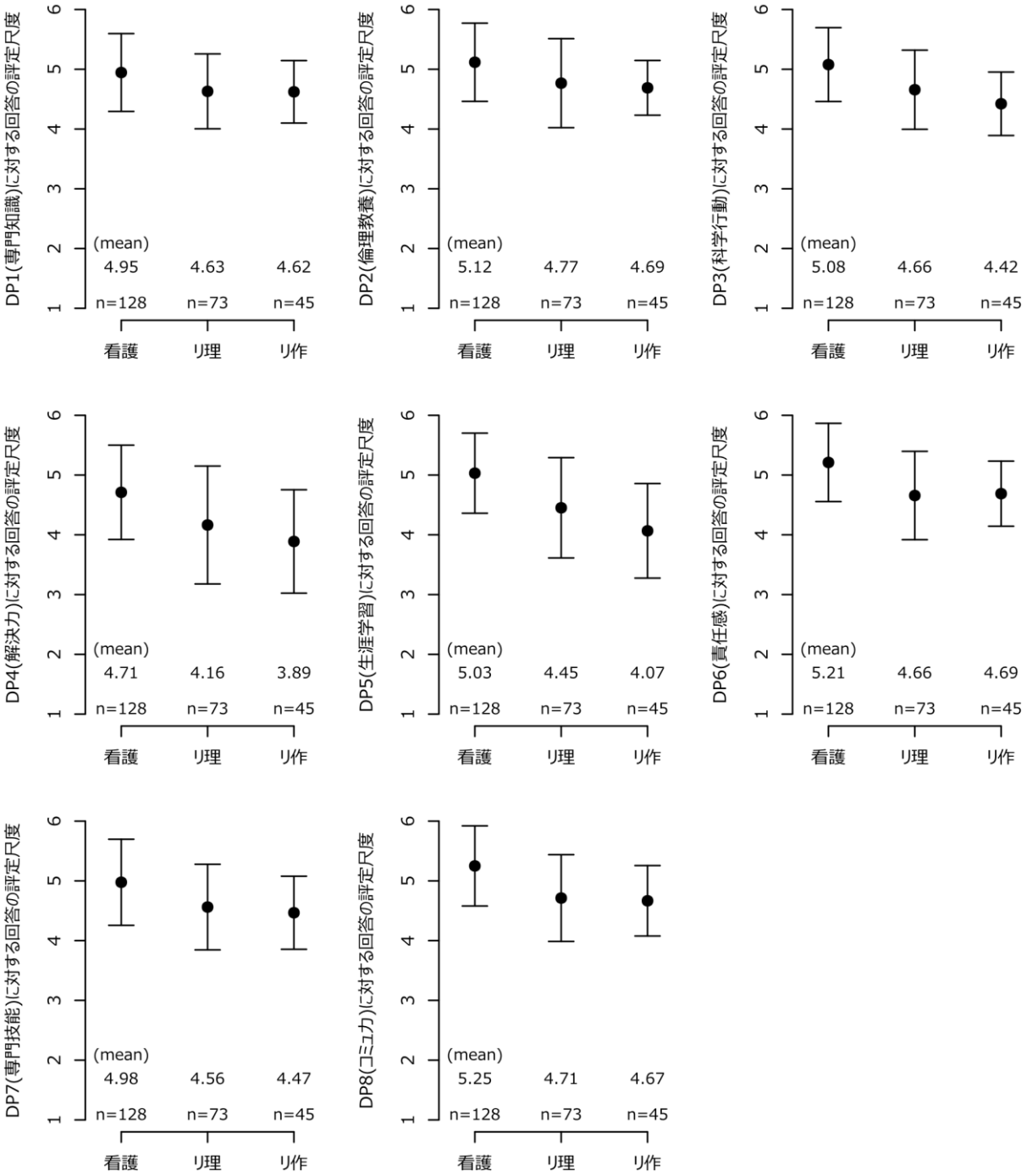

図３－５．DP に対する回答の平均値の学科間比較

３－３）各学科の調査結果および到達度の分析

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの８項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

３－３－１）看護学科

アンケート調査の DP1～DP8 に対する回答結果（卒業生 128 名中 128 件：回収率 100%）のヒストグラムを図３－６、DP 項目毎の回答割合を図３－７に示す。DP1～DP8 について、学部全体の回答の平均値と看護学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図３－８に示す。

全ての DP 項目で評定値の平均は学部全体と比較して、すべての DP 項目で高い値（学部平均値との差：0.16～0.35、平均：0.25）を示した。学部平均値との差が最も差が大きかった DP 項目は DP5（生涯学習）で、学部平均より 0.35 高い値となった。

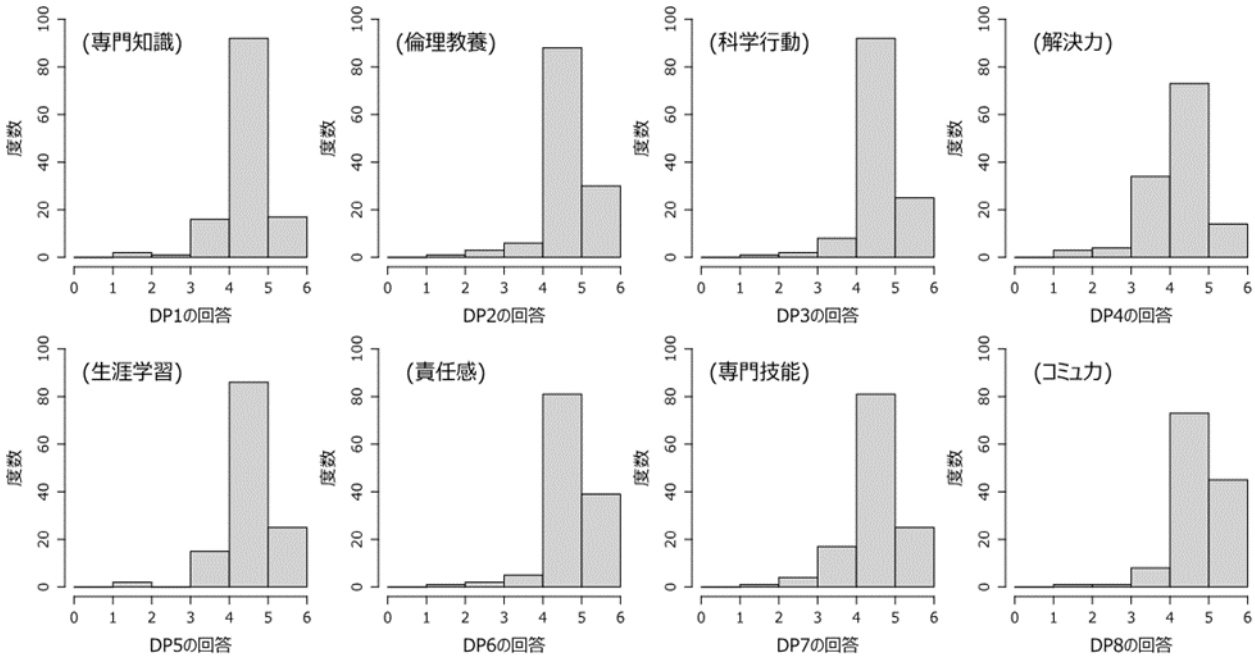

図３－６．看護学科の回答分布

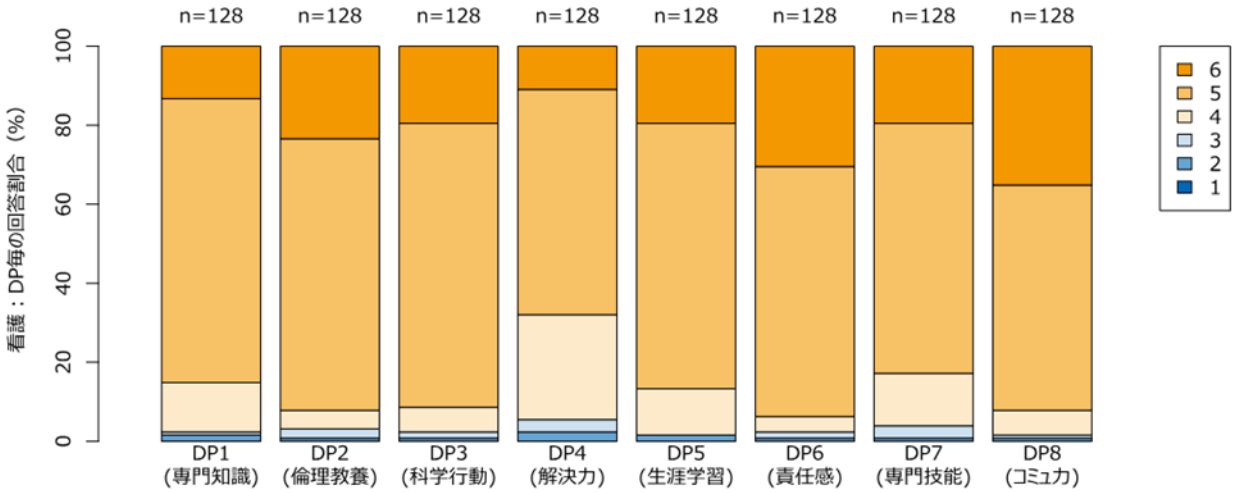

図３－７．看護学科の保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
DP 毎の回答割合

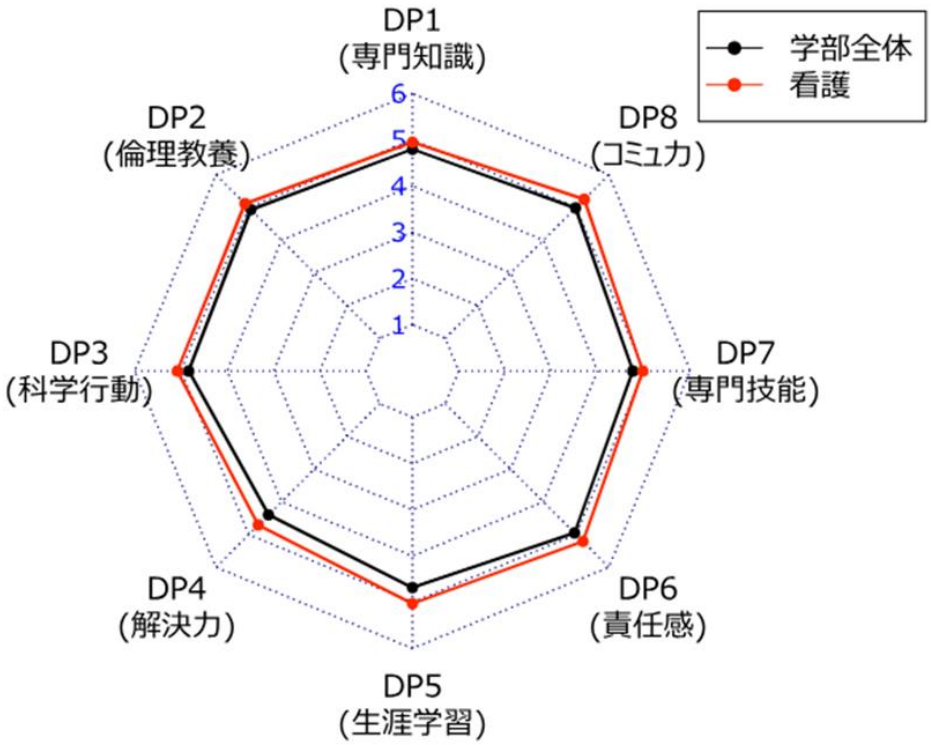

図３－８．回答結果の看護学科と学部全体との比較（平均値）

３－３－２）リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査の DP1～DP8 に対する回答結果（卒業生 73 名中 73 件：回収率 100.0%）のヒストグラムを図３－９、DP 項目毎の回答割合を図３－10 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科理学療法専攻の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図３－11 に示す。

全ての項目で評定値の平均が学部全体より低い値（学部平均値との差：－0.29～0.16、平均：－0.22）を示した。学部平均値との差が最も差が大きかった DP 項目は DP6（責任感）で、学部平均より－0.29 低い値となった。

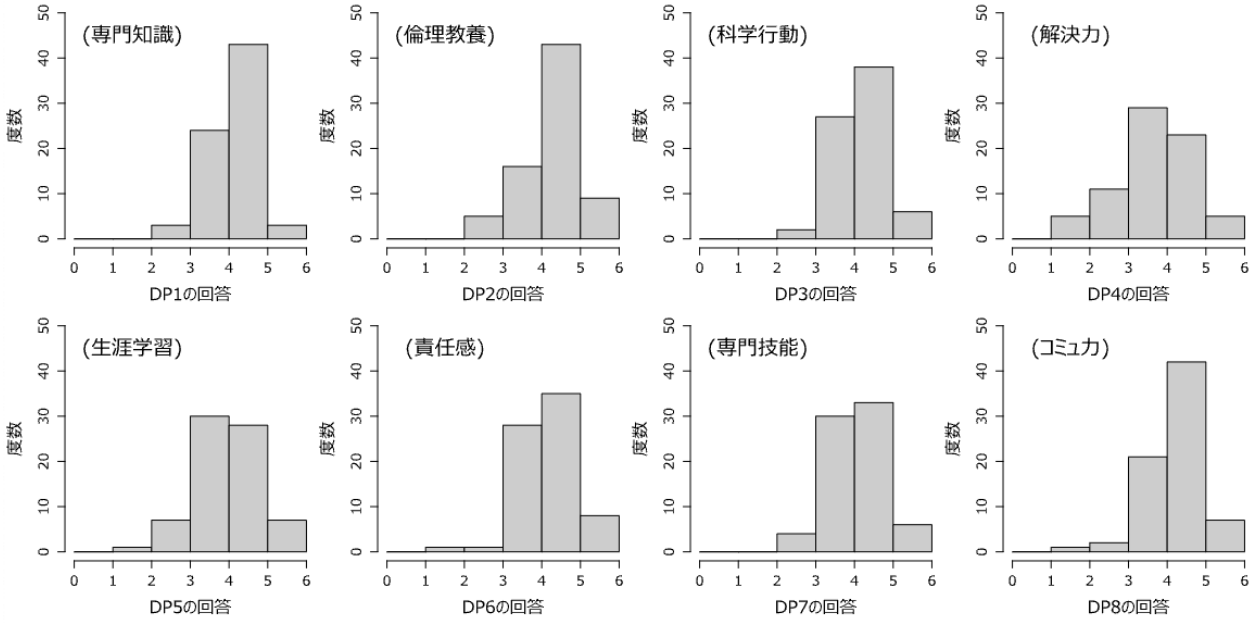

図３－９．リハビリテーション学科理学療法専攻の回答分布

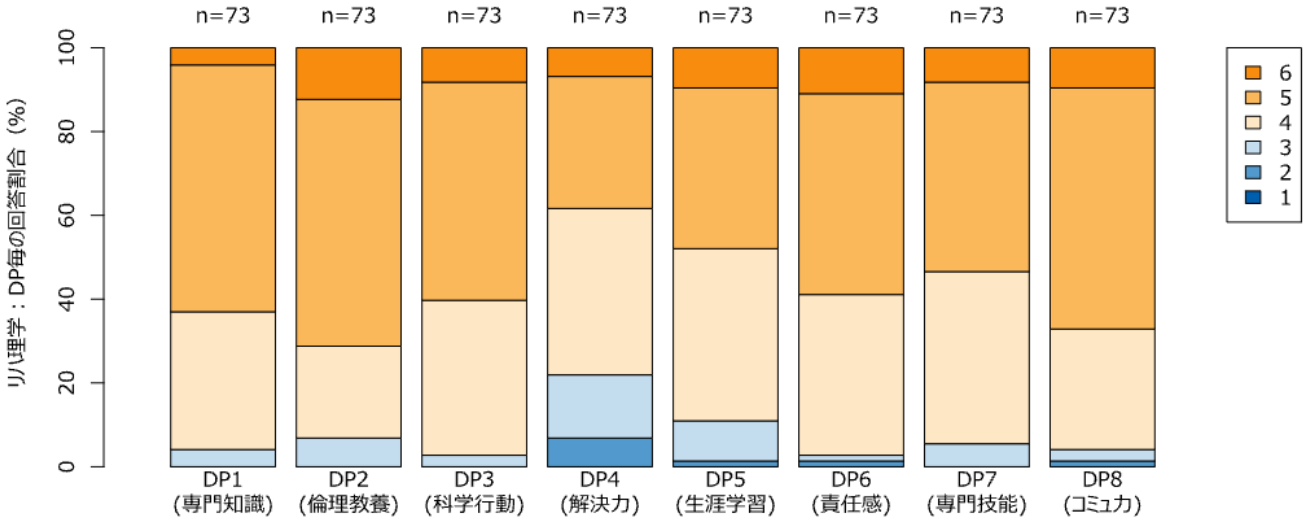

図３－10．リハビリテーション学科理学療法専攻の
保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
DP 毎の回答割合

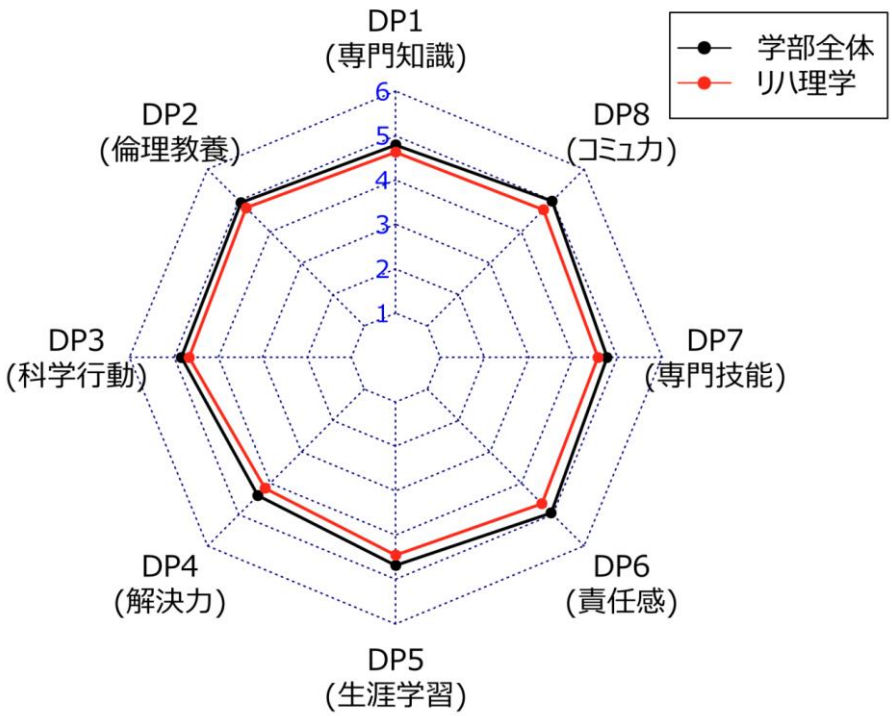

図３－11. 回答結果のリハビリテーション学科理学療法専攻と学部全体との比較（平均値）

３－３－３）リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査の DP1～DP8 に対する回答結果（卒業 45 名中 45 件：回収率 100.0%）のヒストグラムを図３－12、DP 項目毎の回答割合を図３－13 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の回答の平均値とリハビリテーション学科作業療法専攻の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図３－14 に示す。

全ての DP 項目で評定値の平均が学部全体より低い値（学部平均値との差：－0.62～－0.17、平均：－0.35）を示した。学部平均値との差が最も差が大きかった DP 項目は DP5（生涯学習）で、学部平均より－0.62 低い値となった。

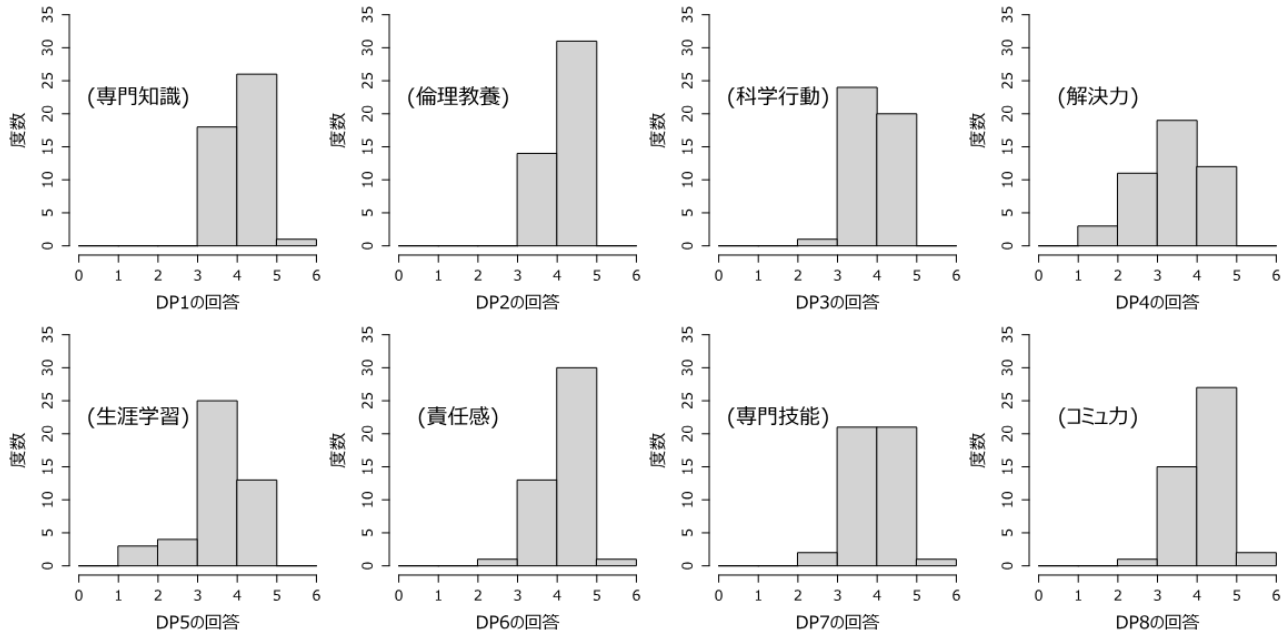

図３－12. リハビリテーション学科作業療法専攻の回答分布

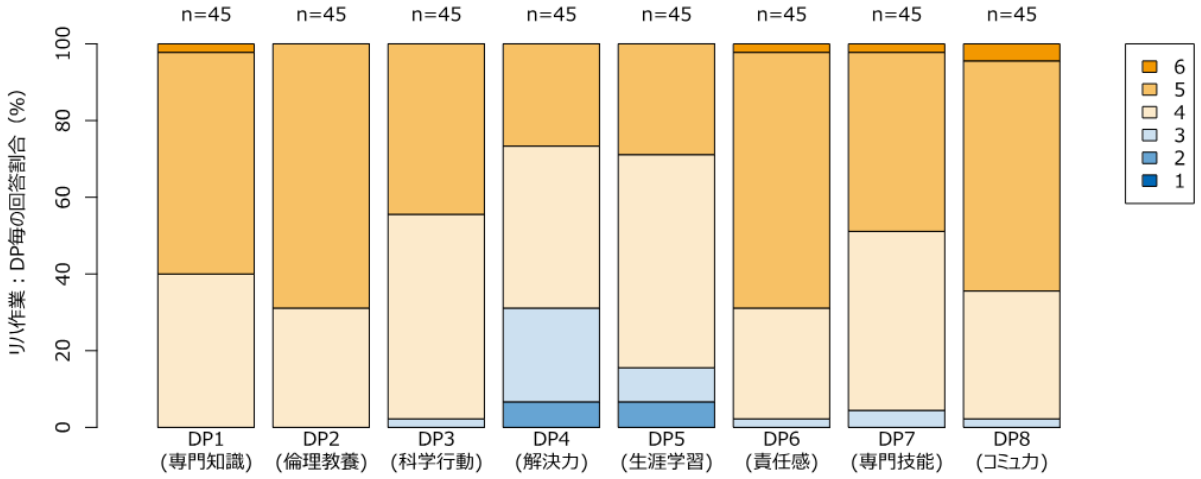

図３－13. リハビリテーション学科作業療法専攻の
保健衛生学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
DP 毎の回答割合

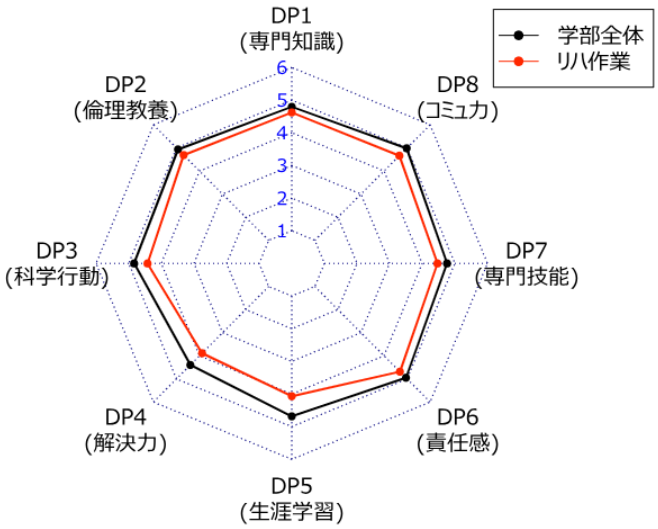

図３－14. 回答結果のリハビリテーション学科作業療法学専攻と学部全体との比較（平均値）

３－４）経年的分析

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの８項目について、2019 年～2023 年の５年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、医療科学部全体での学生自己評価の平均値の推移を図３－15 に示す。

各 DP 項目の学生自己評価の平均値について、各年における平均値はほぼ同じ値を示しており、経年的な変化に何らかの傾向は認められなかった。

保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの８項目について、2019 年 3 月～2023 年 3 月の５年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、各年の調査における１～６段階の自己評価の回答の割合の推移を図３－16 に示す。

全ての DP 項目について、到達度「６：完全に修得できた」回答割合は減少傾向にあった。DP4（（解決力）、DP5（生涯学習）、DP7（解決力）においては、2022 年度まで増加傾向にあったが、2023 年度では減少していた。

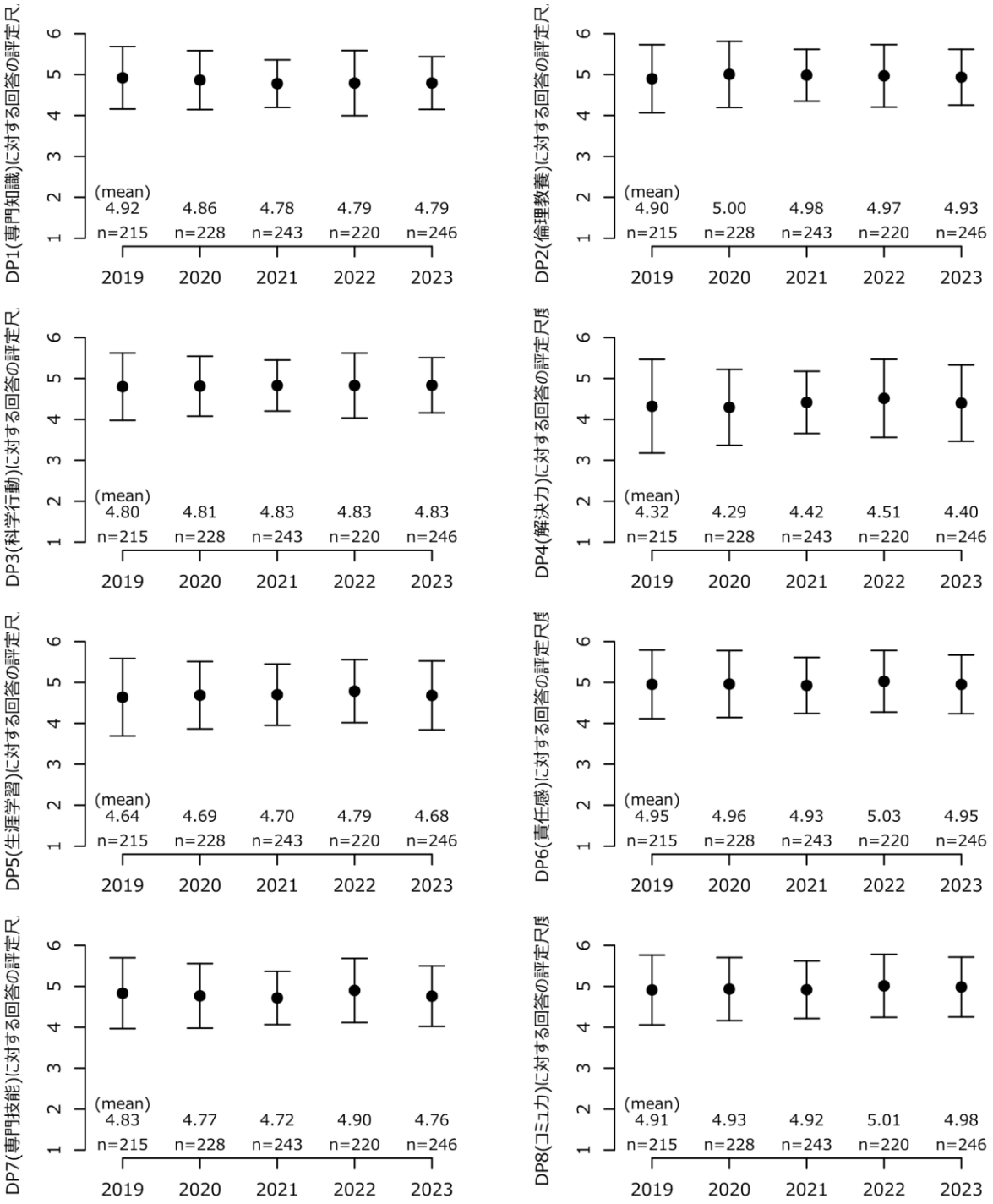

図 3－15．保健衛生学部ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価（平均値）の推移

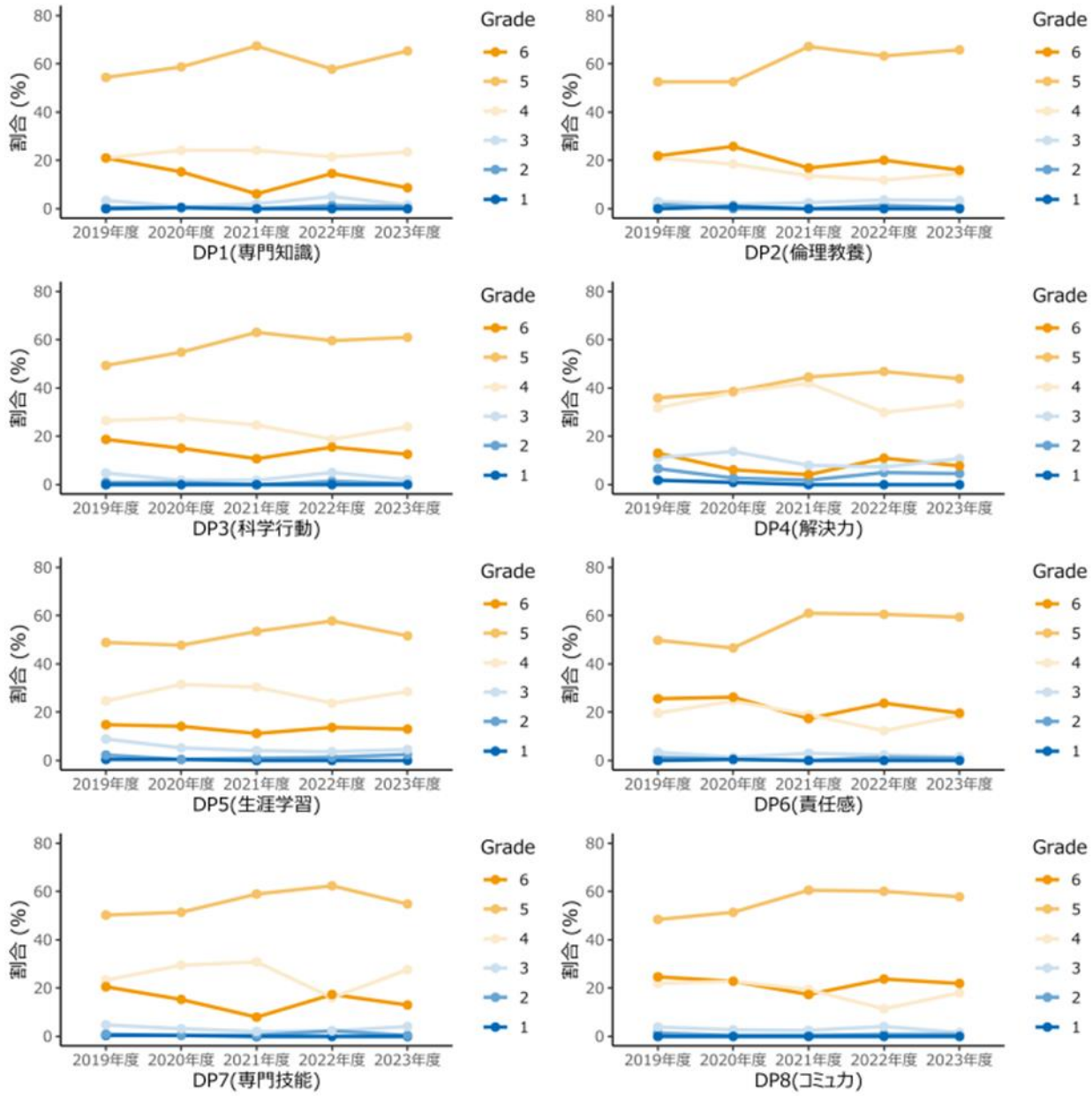

図３－16. 保健衛生学部のディプロマ・ポリシーの到達度自己評価の回答割合の推移

４．学科ディプロマ・ポリシーの到達度

４－１）アンケート調査方法

保健衛生学部の 2022 年度４年生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、学生自身に評価させるアンケート調査を実施した。アンケート調査は「医療科学部・保健衛生学部 Moodle」の「アンケート」機能により実施し、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目（計８項目）を設問として、それに対する自らの到達度を６段階で自己評価させた。達成度の６段階の評定尺度を表４－１に示す。

表４－１．アンケート調査に用いた到達度の評定尺度（6 段階）

６：完全に修得できた
５：概ね修得できた
４：最低水準は修得できた
３：ある程度修得したが、最低水準には届かない
２：十分に修得できていない
１：全く修得できていない

アンケート調査は、2022 年度４年生が卒業する前の 2022 年１～２月中に各学科の事情に合わせ、学生に対して Moodle での入力を促した。

４－２）各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

４－２－１）看護学科

アンケート調査項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）を表４－２に示す。

2022 年度看護学科４年生を対象とした看護学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、DP1～DP8 に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生 128 名中 128 件：回収率 100%）のヒストグラムを図４－１に示す。各 DP に対する回答の割合を図４－２に示す。

アンケート回答結果について、簡便に６段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、DP ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表４－３に示す。DP1～DP8 について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図４－３に示す。

2022 年度看護学科４年の看護学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、DP1～DP8 のいずれも評定値の平均値は「４：最低水準は修得できた」以上の回答が得られ、中央値は「５：概ね修得できた」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは概ね達成できている状況であった。2 年次、3 年次、4 年次の 3 年間はコロナ禍のため、特に 2 年次はオンライン授業が多くなり、臨地実習は制限がある状況がみられた。その中で、評定値の平均値が「５：概ね学修できた」以下であったのは、DP6(協調指導)、DP7(地域貢献) DP8(国際探究)であった。この項目については、「６:完全に修得できた」は 20%以下、「５：概ね学修できた」は60%程度であった。平均値が高かったのはDP3（自律責任）、次いでDP5（コミュ力）、次いで DP4（生涯学習）であった。この３項目は「６:完全に修得できた」は約40%、「５：概ね学修できた」は55%程度であった。「６:完全に修得できた」と「５：概ね学修できた」の合計が 90%以上であった。

平均値が高かった前記の続きが DP１(知識技能)、DP2(看護基礎)であり「６:完全に修得できた」と「５：概ね学修できた」の合計がこの項目も 90%以上であった。

表４－２．アンケート調査の DP 項目（看護学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 （知識技能）	看護職の基盤となる知識と技能が身につきましたか。
DP2 （看護基礎）	看護の対象である人を総合的に理解し、基礎的な看護を実践できるようになりましたか。
DP3 （自律責任）	人権を擁護する看護の責任と役割、および自律性を認識し、看護職としての責任ある言動をとることができるようになりましたか。
DP4 （生涯学習）	専門職業人としての自己をみつめ、自主的かつ持続的な学修を生涯継続していく姿勢を身につけることができましたか。
DP5 （コミュ力）	多様な価値観があることを受入れ、適切な援助的コミュニケーションをとることができるようになりましたか。
DP6 （協調指導）	保健医療福祉のチームに関わる人たちと協調し、リーダーシップやフォロワーシップを発揮することができるようになりましたか。
DP7 （地域貢献）	地域包括ケアの概念を基盤に、人々の生活の質を高める看護職の役割を担うことができるようになりましたか。
DP8 （国際探求）	国際的視点に根ざして日本の保健・医療・福祉の動向に関心をもち、疑問を解決する姿勢をもち続けることができるようになりましたか。

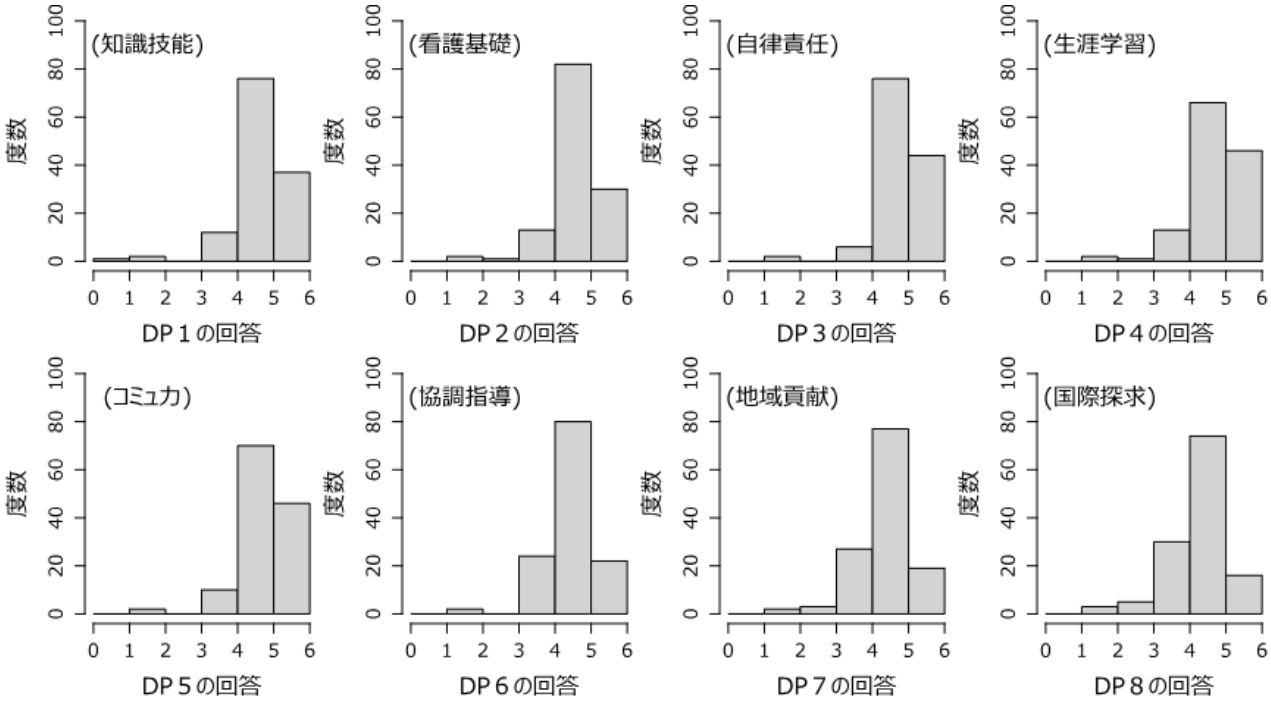

図４－１．看護学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果　回答分布

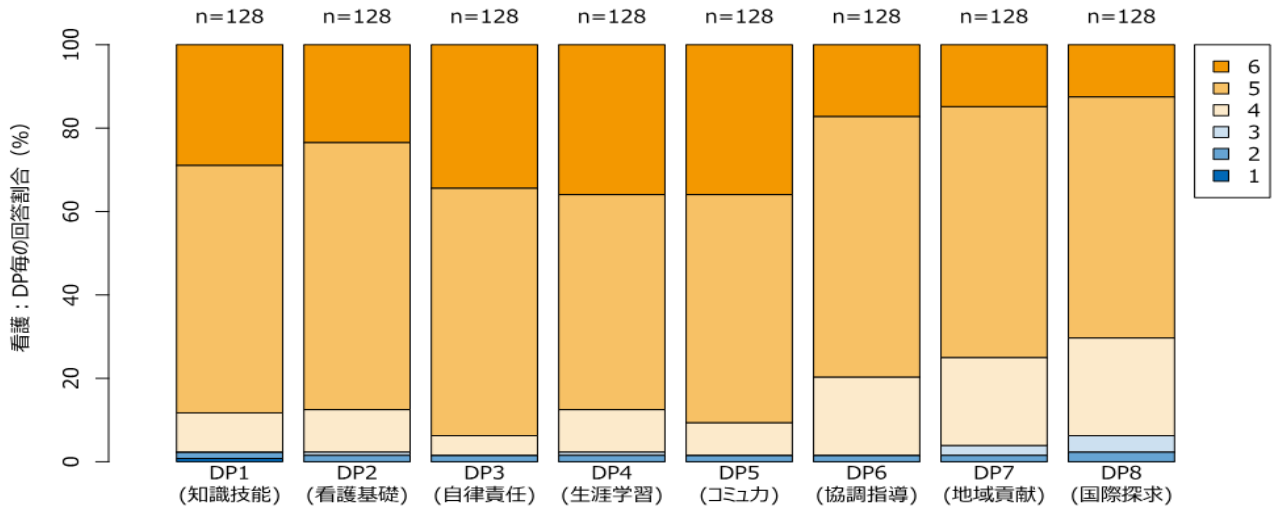

図４－２．看護学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果　DP 毎の回答割合

表４－３．看護学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果　基本統計量

看護	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
平均値	5.12	5.07	5.25	5.20	5.23	4.94	4.84	4.74
標本SD	0.80	0.71	0.69	0.77	0.73	0.71	0.76	0.82
中央値	5	5	5	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6	6	6	6
最小値	1	2	2	2	2	2	2	2
n	128	128	128	128	128	128	128	128

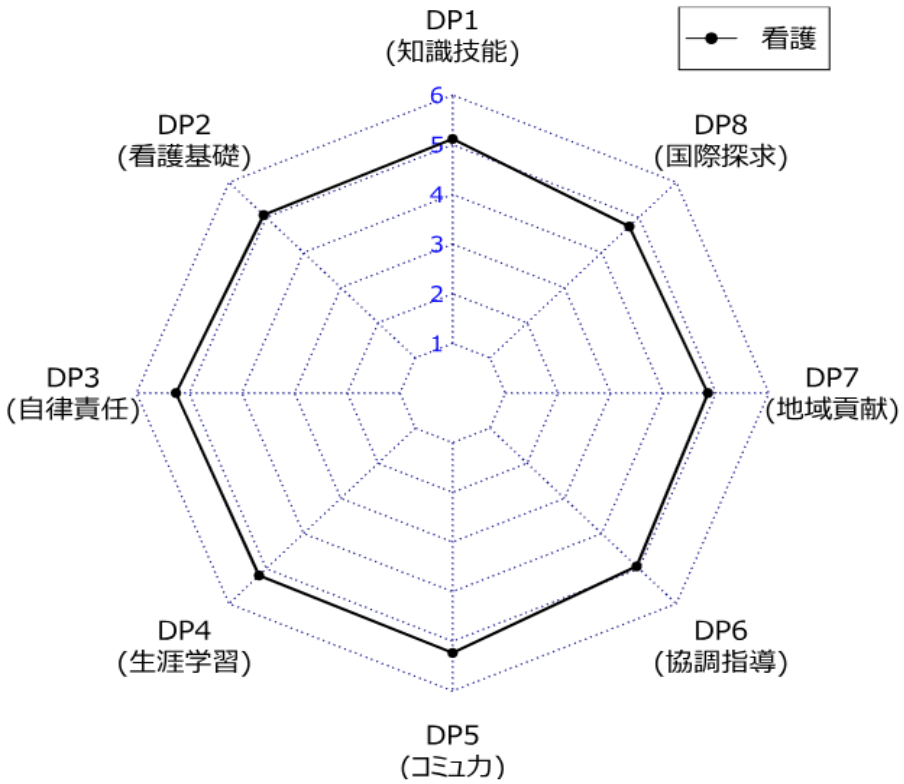

図４－３．看護学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果　評定値の平均値

４－２－２）リハビリテーション学科・理学療法専攻

アンケート調査項目（リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー）を表４－４に示す。

2022 年度リハビリテーション学科理学療法専攻４年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、DP1～DP7 に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生 73 名中 72 件：回収率 99%）のヒストグラムを図４－４に示す。各 DP に対する回答の割合を図４－５に示す。

アンケート回答結果について、簡便に６段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、DP ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表４－５に示す。DP1～DP7 について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図４－６に示す。

2022 年度リハビリテーション学科理学療法専攻４年生のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、DP1～DP7 のいずれも評定値の平均値は「４：最低水準は修得できた」以上の回答が得られ、中央値も DP4 の「４：最低水準は修得できた」を除き、「５：概ね修得できた」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況であった。

DP4（生涯学習）を除いた、DP1（専門知識）、DP2（倫理態度）、DP3（科学行動）、DP5（地域貢献）、DP6（専門技能）、DP7（チーム医療）についての回答は、中央値が「５：概ね修得できた」を示しており，ほぼ同等の分布を示していた。各項目が高い平均値（4.40～4.83）を示しており、これは、本学科の特徴である客観的臨床能力試験（OSCE）、豊富な臨床実習、地域貢献に関する講義や実習を通して、医療人として必要な知識・技術・態度の向上を追求した結果得られたものと考えられる。DP4（生涯学習）についての回答は、「４：最低水準は修得できた」と「５：概ね修得でいた」の回答が同程度であった。

表４－４．アンケート調査の DP 項目（リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 （専門知識）	医療人として、専門分野の学修内容について知識を修得し、周辺科学領域の専門家と協調しリハビリテーションを学問として深化させることができる能力が身につきましたか。
DP2 （倫理態度）	患者心理を理解することができ、多様な価値観の存在を認識共感し、また、患者の尊厳を重んじ、倫理的配慮に基づいた責任説明を果たす個別対応ができる専門職業人としての幅広い教養および基本的態度が身につきましたか。
DP3 （科学行動）	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるように理学療法および作業療法の専門領域において、必要な行動を示すことができるようになりましたか。
DP4 （生涯学習）	最新の科学情報を収集し社会の医療ニーズの変化に対応でき、生涯を通して理学療法・作業療法を臨床科学として自らを高め、効果測定や治療概念・技術の開発など臨床研究を発展させることができるようになりましたか。
DP5 （地域貢献）	患者および地域住民の健康に関連する生活上の諸課題を解決するため治療、予防、健康維持増進など健康障害からの回復に寄与するため、医療人として科学的根拠に基づき責任をもった行動をとることができるようになりましたか。
DP6 （専門技能）	専門的な技能を身につけ、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用することができるようになりましたか。
DP7 （ﾁｰﾑ医療）	組織運営に必要な知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解でき、チーム医療としてメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになりましたか。

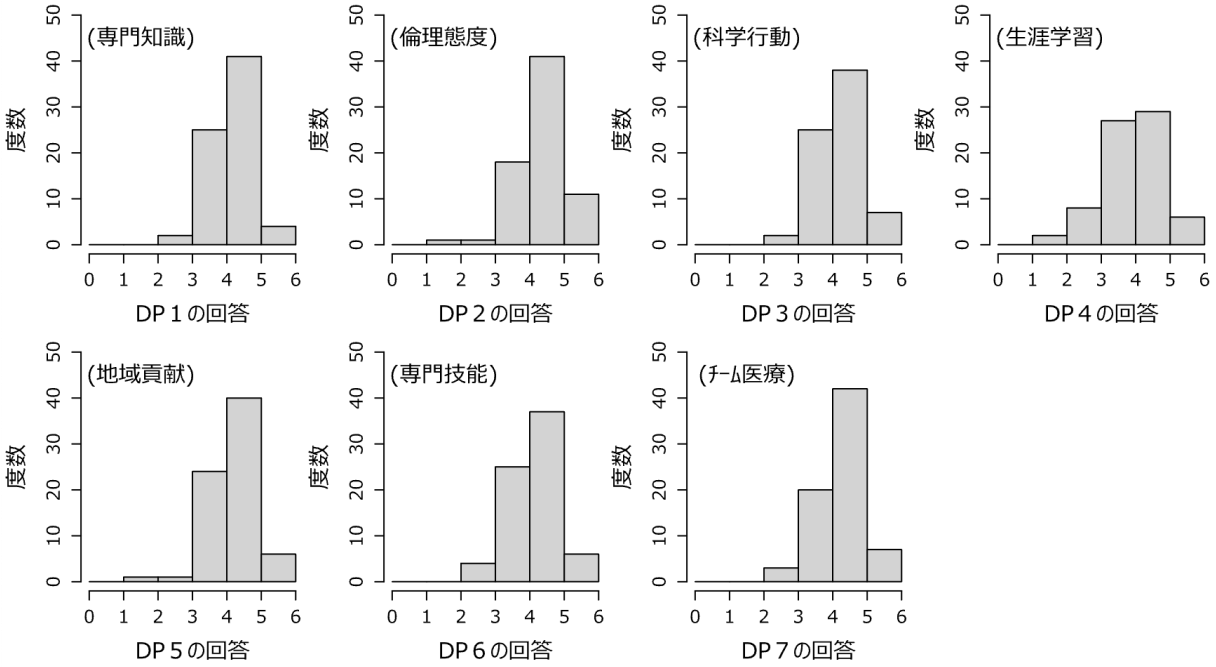

図４－４．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
回答分布

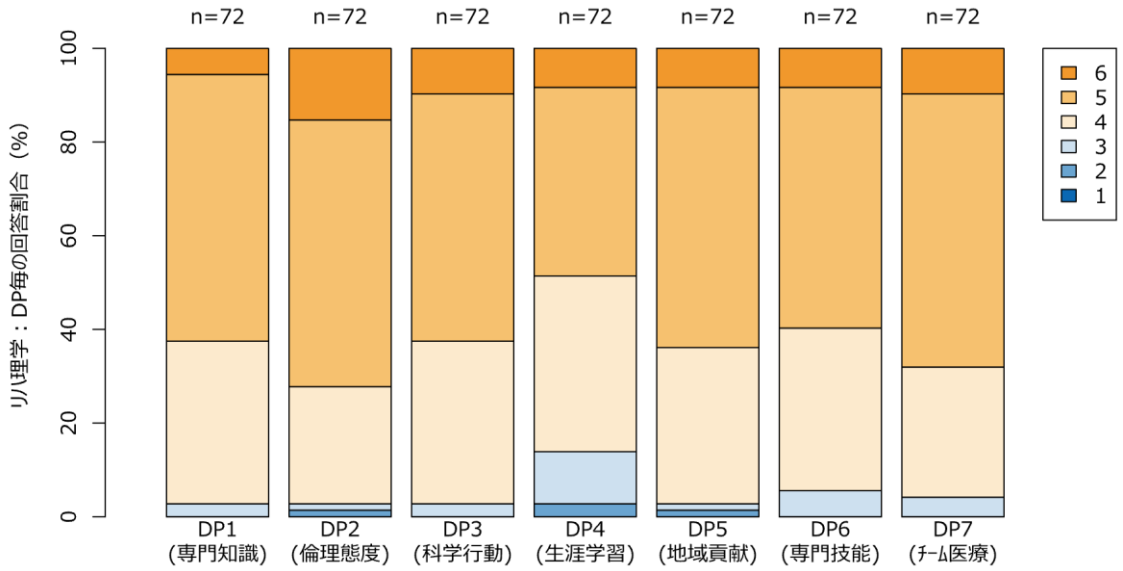

図４－５．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
DP 毎の回答割合

表４－５．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
基本統計量

リ理	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	4.65	4.83	4.69	4.40	4.68	4.63	4.74
標本SD	0.62	0.74	0.68	0.89	0.70	0.71	0.68
中央値	5	5	5	4	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	3	2	3	2	2	3	3
n	72	72	72	72	72	72	72

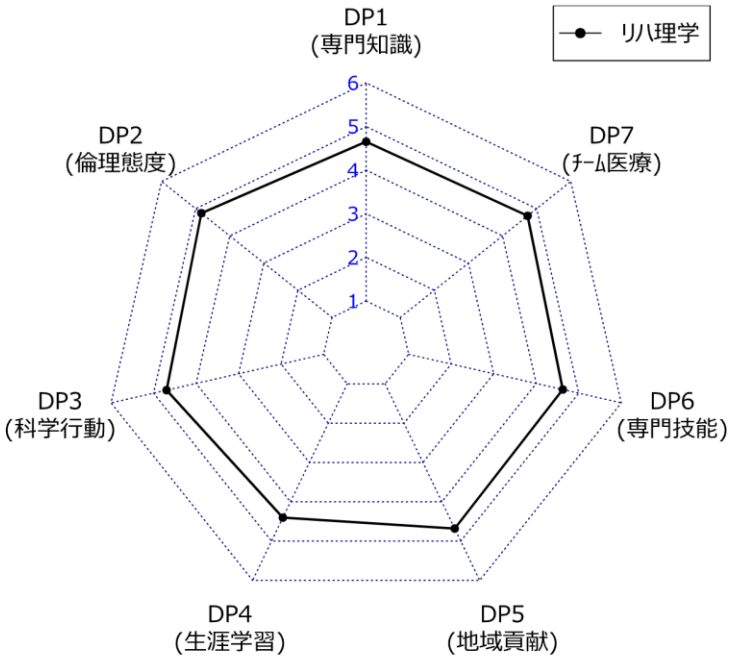

図４－６．リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
評定値の平均値

４－２－３）リハビリテーション学科・作業療法専攻

アンケート調査項目（リハビリテーション学科ディプロマ・ポリシー）を表４－４に示す。

2022 年度リハビリテーション学科作業療法専攻４年生を対象としたリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、DP1～DP7 に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生 45 名中 45 件：回収率 100%）のヒストグラムを図４－７に示す。各 DP に対する回答の割合を図４－８に示す。

アンケート回答結果について、簡便に６段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、DP ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表４－６に示す。DP1～DP7 について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図４－９に示す。

2022 年度リハビリテーション学科作業療法専攻４年のリハビリテーション学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、DP1～DP7 のいずれも評定値の平均値は「４：最低水準は修得できた」前後の回答が得られ、中央値も「４：最低水準は修得できた」～「５：概ね修得できた」を示しており、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況であった。

DP1（専門知識）、DP2（倫理態度）、DP3（科学行動）、DP5（地域貢献）、DP7（チーム医療）についての回答は、「５：概ね修得できた」と回答した割合が最も多く、その分布もほぼ同等であった。DP4（生涯学習）、DP6（専門技能）については、「４：最低水準は取得できた」の回答が多かった。

平均値が上位であった DP2（倫理態度）、DP7（チーム医療）については、本学科における医療人として基本的態度に関する教育に加え、豊富な臨床実習による経験が医療食として必要な多職種連携の基盤を身につけることに繋がった結果と考えられる。また、次いで平均値が高かったDP1（専門知識）、DP3（化学行動）、DP6（専門技能）については、本学科の特徴である豊富な科目設定、客観的臨床能力試験（OSCE）、豊富な臨床実習による知識・技術・態度の向上を追求した結果得られたものと考えられる。

一方、DP4（生涯学習）において平均点が 4.02 と最も低かった。また、DP5（地域貢献）の平均値が次いで低かった。

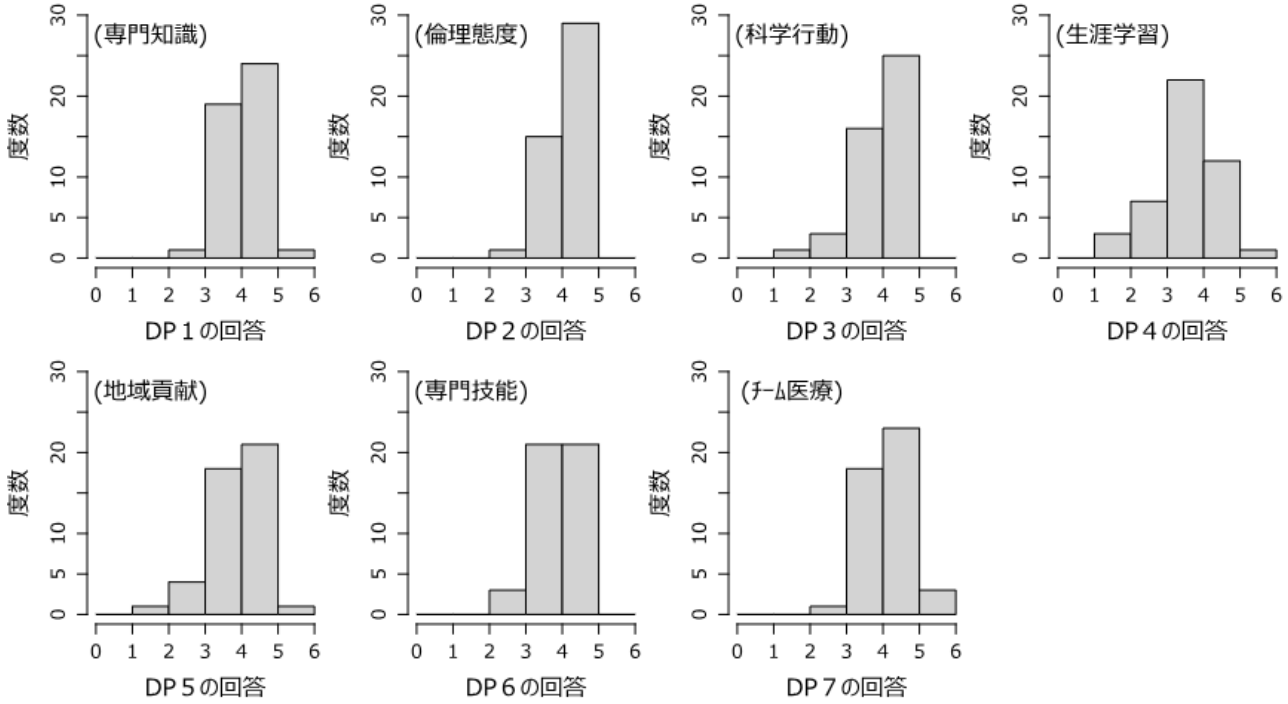

図４－７．リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
回答分布

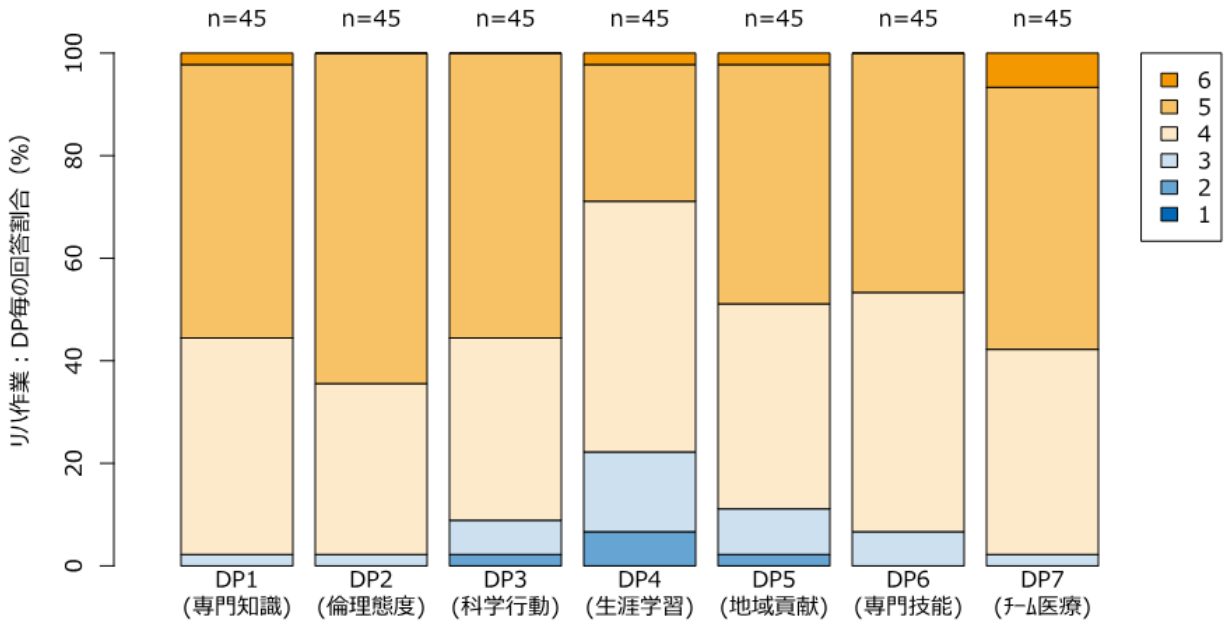

図４－８．リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
DP 毎の回答割合

表４－６．リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
基本統計量

リ作	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	4.56	4.62	4.44	4.02	4.38	4.40	4.62
標本SD	0.57	0.52	0.71	0.87	0.76	0.60	0.64
中央値	5	5	5	4	4	4	5
最大値	6	5	5	6	6	5	6
最小値	3	3	2	2	2	3	3
n	45	45	45	45	45	45	45

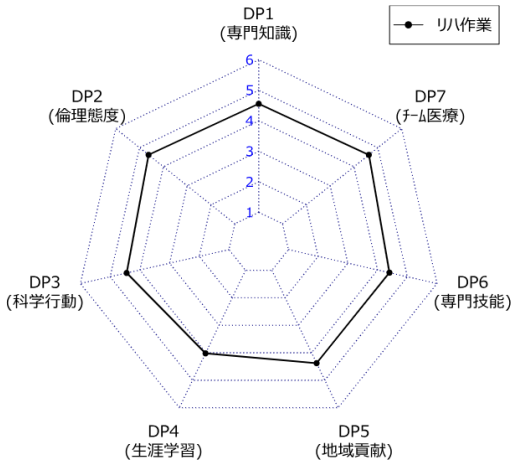

図４－９．リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
評定値の平均値

４－３）経時的分析

４－３－１）看護学科

看護学科ディプロマ・ポリシーの８項目について、2019 年 3 月～2023 年 3 月の５年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、看護学科ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価（平均値）の推移を図４－10 に示す。

各 DP 項目の学生自己評価の平均値について、各年における平均値はほぼ同じ値を示しており、経年的な変化に何らかの傾向は認められなかった。例年、平均値が低い（4.74～4.96）DP8（国際探究）も、経年的な変化は認められなかった。

看護学科ディプロマ・ポリシーの８項目について、2019 年 3 月～2023 年 3 月の５年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、各年の調査における１～６段階の看護学科ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価の回答割合の推移を図４－11 に示す。

DP4（生涯学習）、DP6（協調指導）、DP7（地域貢献）、DP8（国際探究については、多少のばらつきはあるものの、ほぼ経年的な変化は認められなかった。DP1（知能技能）、DP2（看護基礎）、DP3（自律責任）、DP5（コミュ力）については、2021 年度「６：完全に修得できた」が 10～20％の割合で減少、「５：概ね修得できた」が 10～20％の割合で増加を示した。2022 年度より徐々に 2021 年度前の割合の傾向にもどりつつある。

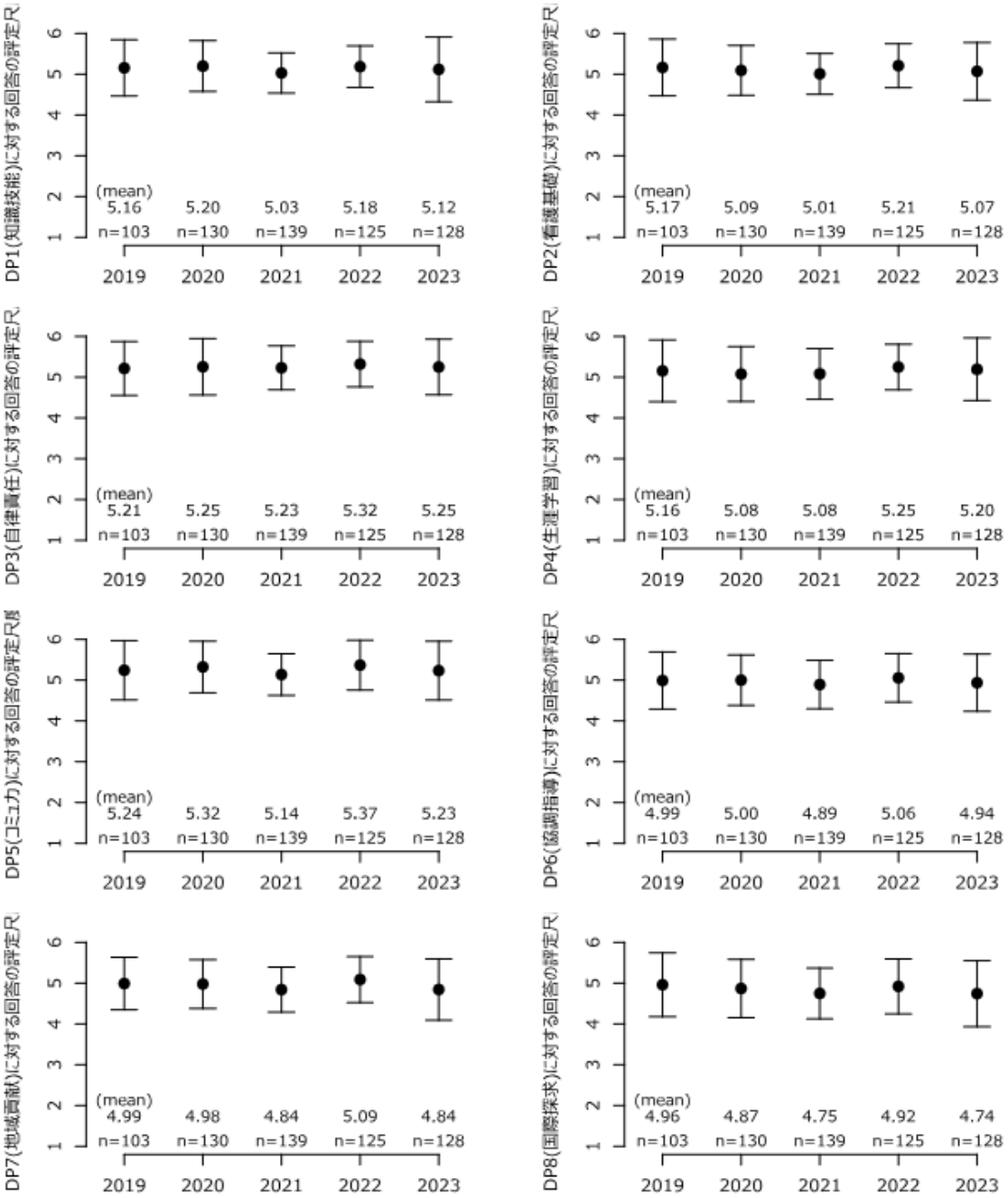

図４－10. 看護学科ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価（平均値）の推移

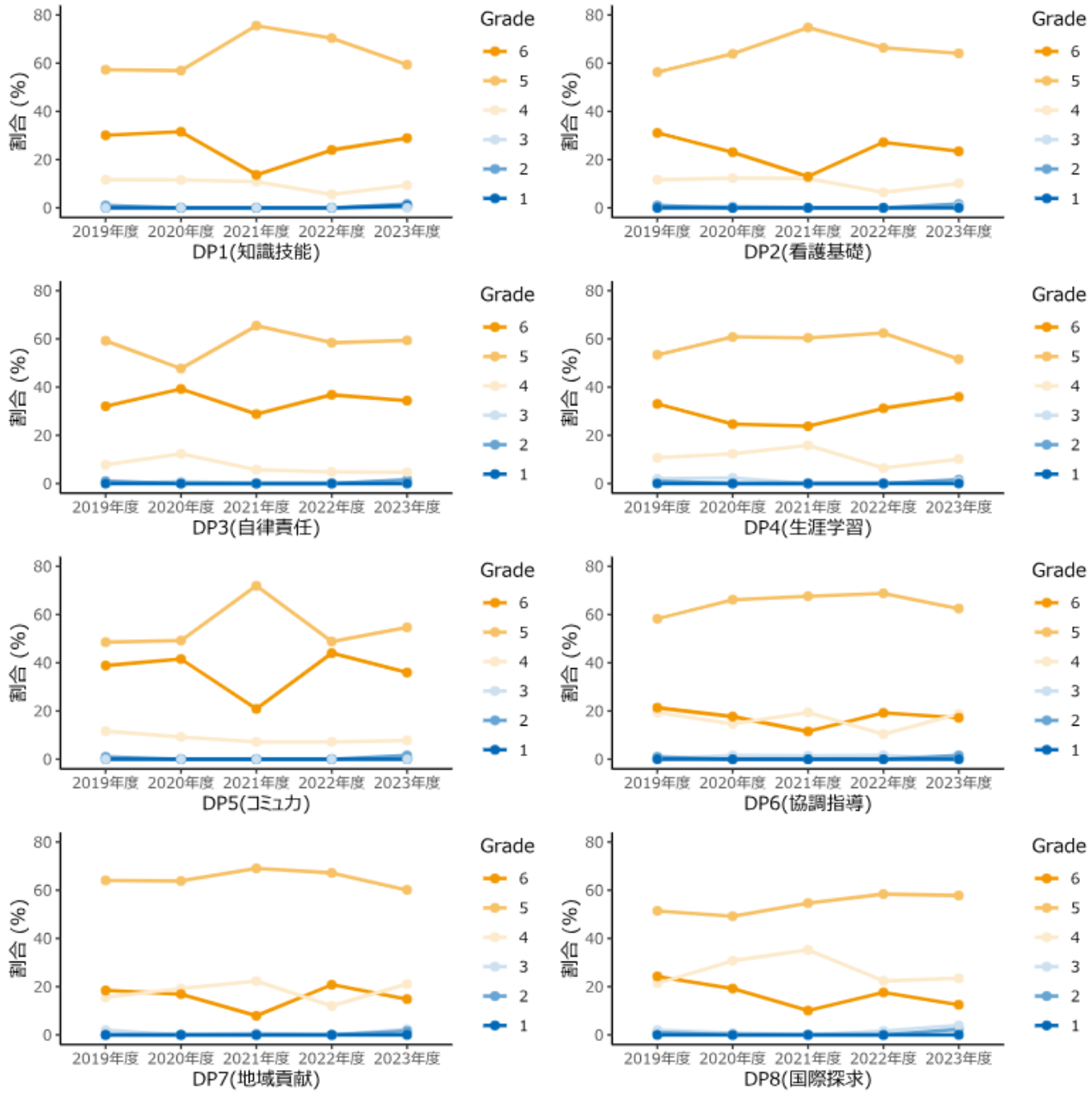

図 4−11. 看護学科ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価の回答割合の推移

４－３－２）リハビリテーション学科理学療法専攻

理学療法学科ディプロマ・ポリシーの７項目について、2019 年～2023 年の５年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、到達度自己評価の平均値の推移を図４－12 に示す。各 DP 項目の学生自己評価の平均値について、概ね 4～5 の範囲の評価であった。各年における平均値はほぼ同じ値を示しており、経年的な変化に何らかの傾向は認められなかった。

到達度自己評価の回答の割合の推移を図４－15 に示す。各 DP 項目について、ほとんどの学生が「５:概ね習得できた」、「４：最低水準は取得できた」を選択した。DP４（生涯学習）のみが４の回答が最も多い傾向であるが、その他の項目では多くの年で５が多い傾向である。2022 年度、2023 年度は、DP2（倫理態度）、DP3（科学的行動）、DP5（地域貢献）、DP6（専門技能）、DP7（チーム医療）、の 5 項目で「５：概ね修得できた」の割合が過去 3 年に比べて高い傾向であった。

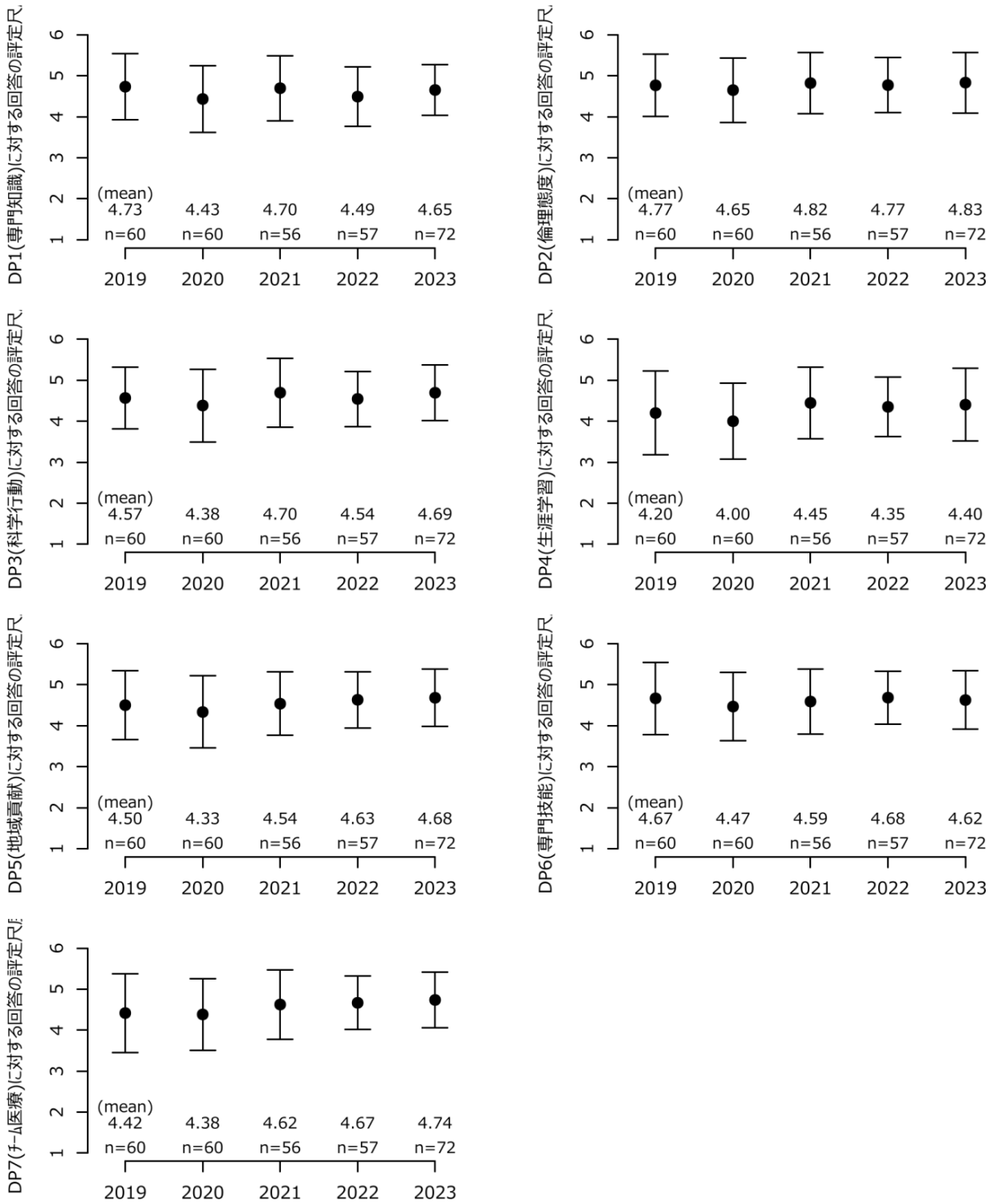

図４－12. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価（平均値）の推移

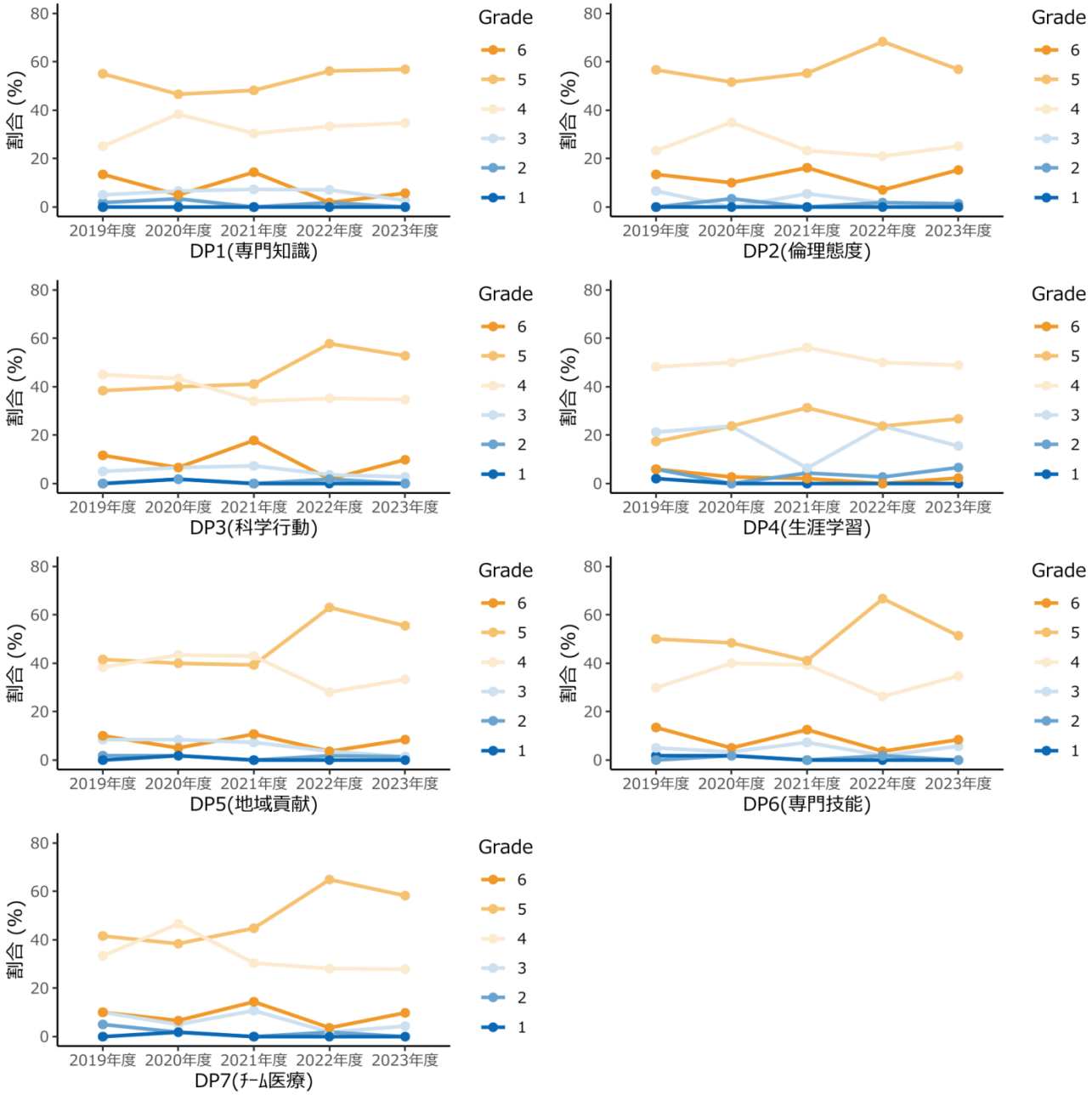

図４－13. リハビリテーション学科理学療法専攻ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価の回答割合の推移

４－３－３）リハビリテーション学科作業療法専攻

作業療法学科ディプロマ・ポリシーの７項目について、2019 年 3 月～2023 年 3 月の５年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、学生自己評価の平均値の推移を図４－14 に示す。

各 DP 項目の学生自己評価の平均値について、各年における平均値はほぼ同じ値を示しており、経年的な変化に何らかの傾向は認められなかった。

作業療法学科ディプロマ・ポリシーの７項目について、2019 年 3 月～2023 年 3 月の５年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、各年の調査における１～６段階の自己評価の回答の割合の推移を図４－15 に示す。

各 DP 項目について、各回答の割合は経年的にばらついた変化を示した。何らかの経年的な変化の傾向は認められなかった。

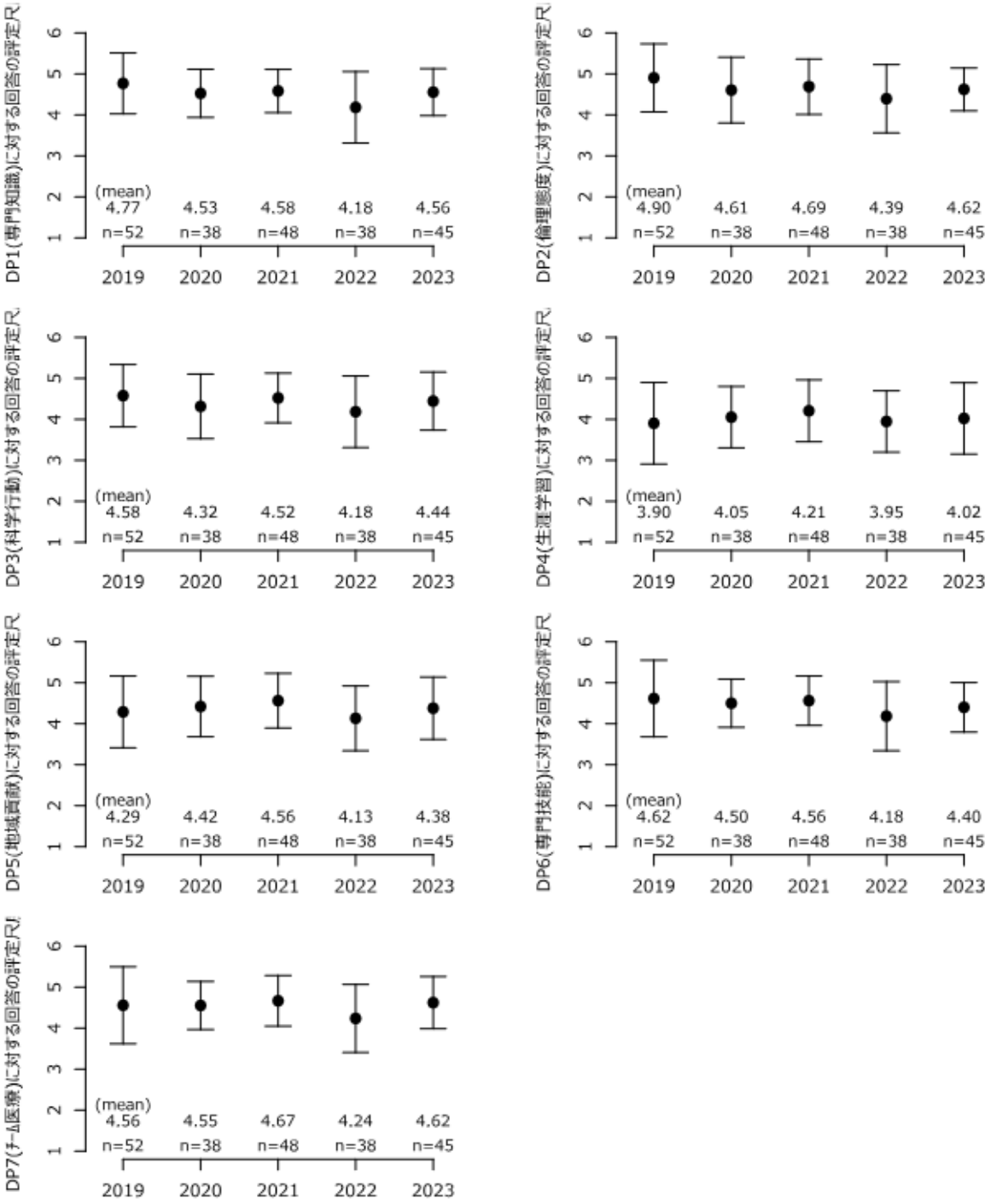

図４－14. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価（平均値）の推移

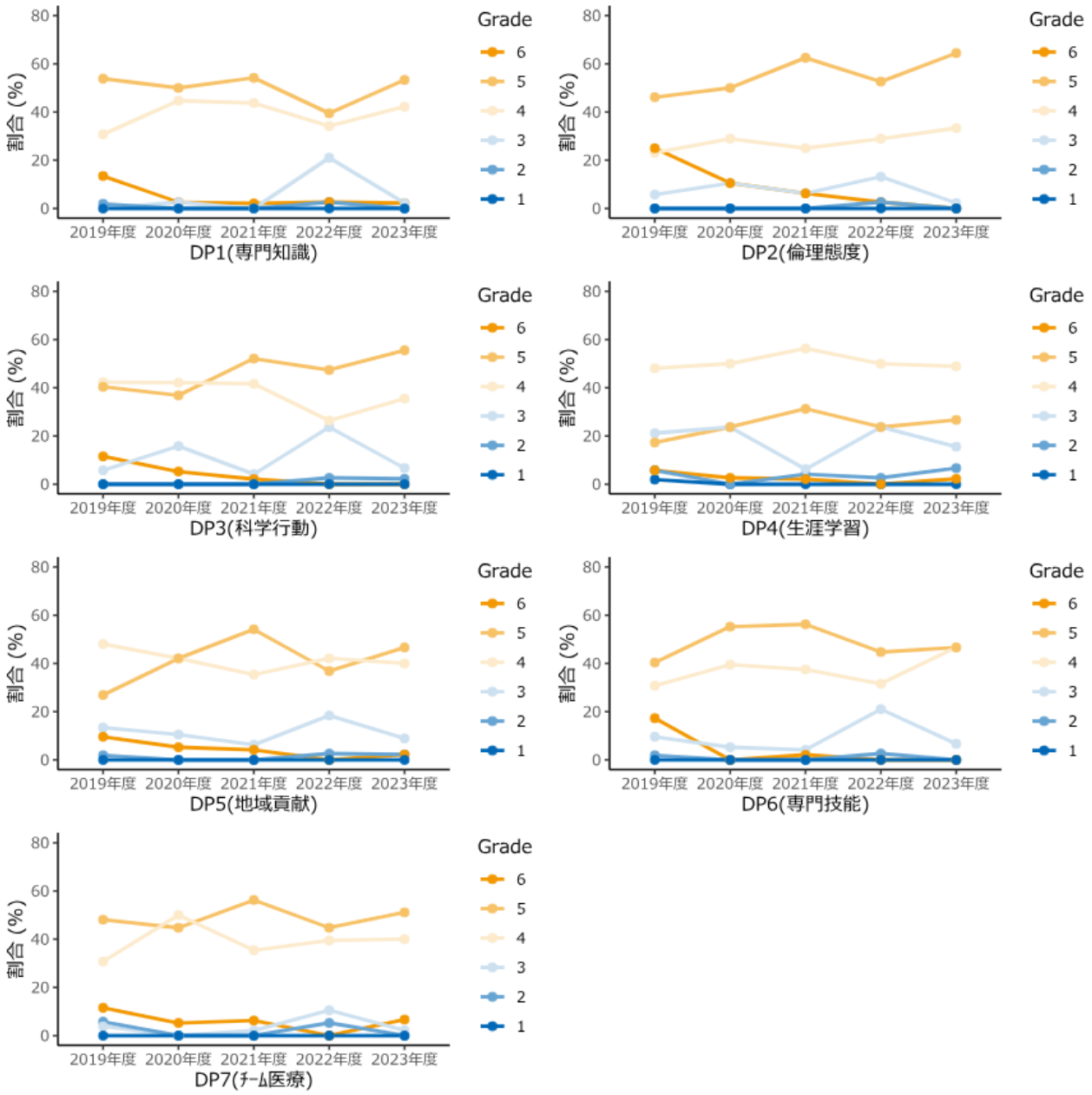

図４－15. リハビリテーション学科作業療法専攻ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価の回答割合の推移